

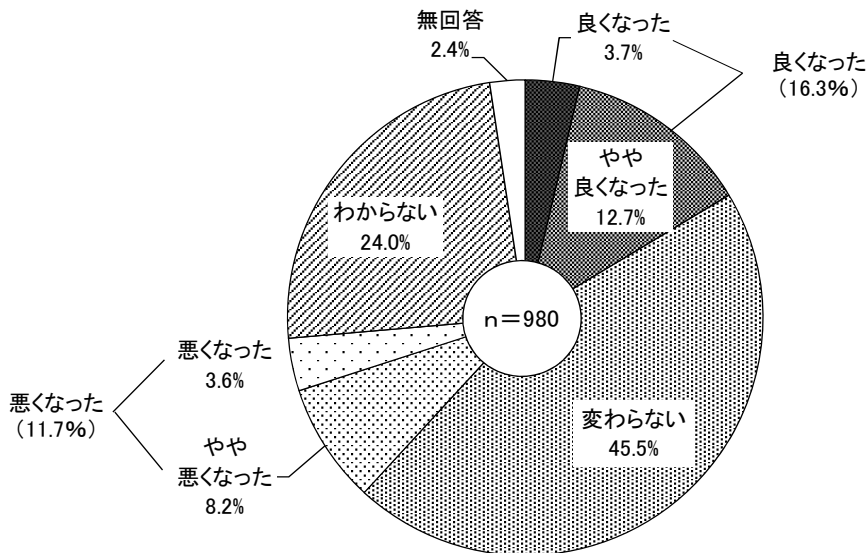
3 防犯・防火について

(1) 過去（5年程度）と比較しての区の治安

◇「変わらない」が4割半ば、『良くなった』が1割半ば、『悪くなった』が1割

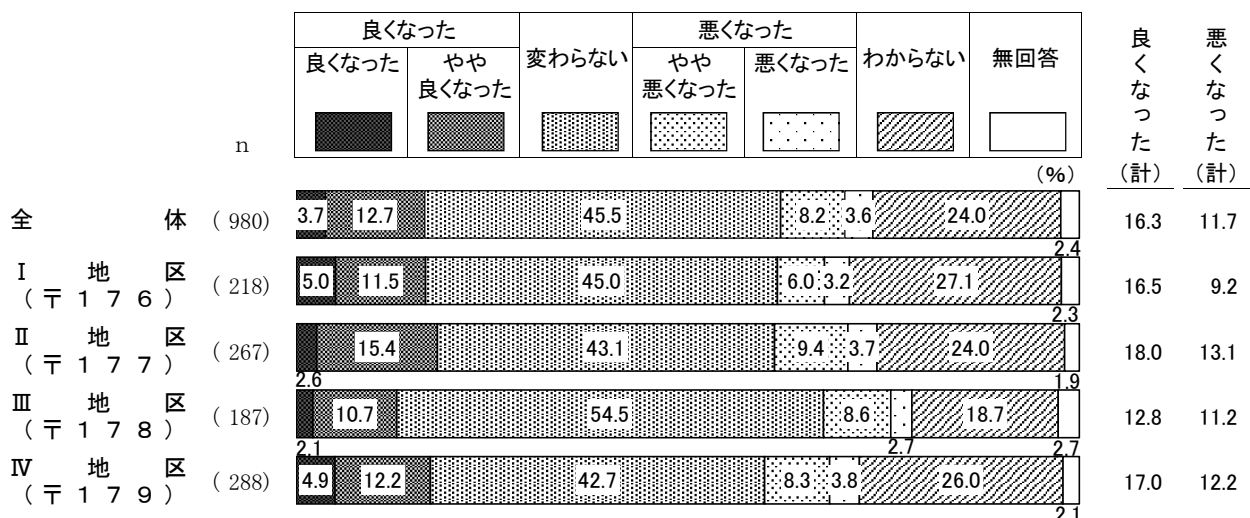
問21 区の治安について、過去（5年程度）と比べてどのように感じますか。
（○は1つ）

図3-1-1 過去（5年程度）と比較しての区の治安



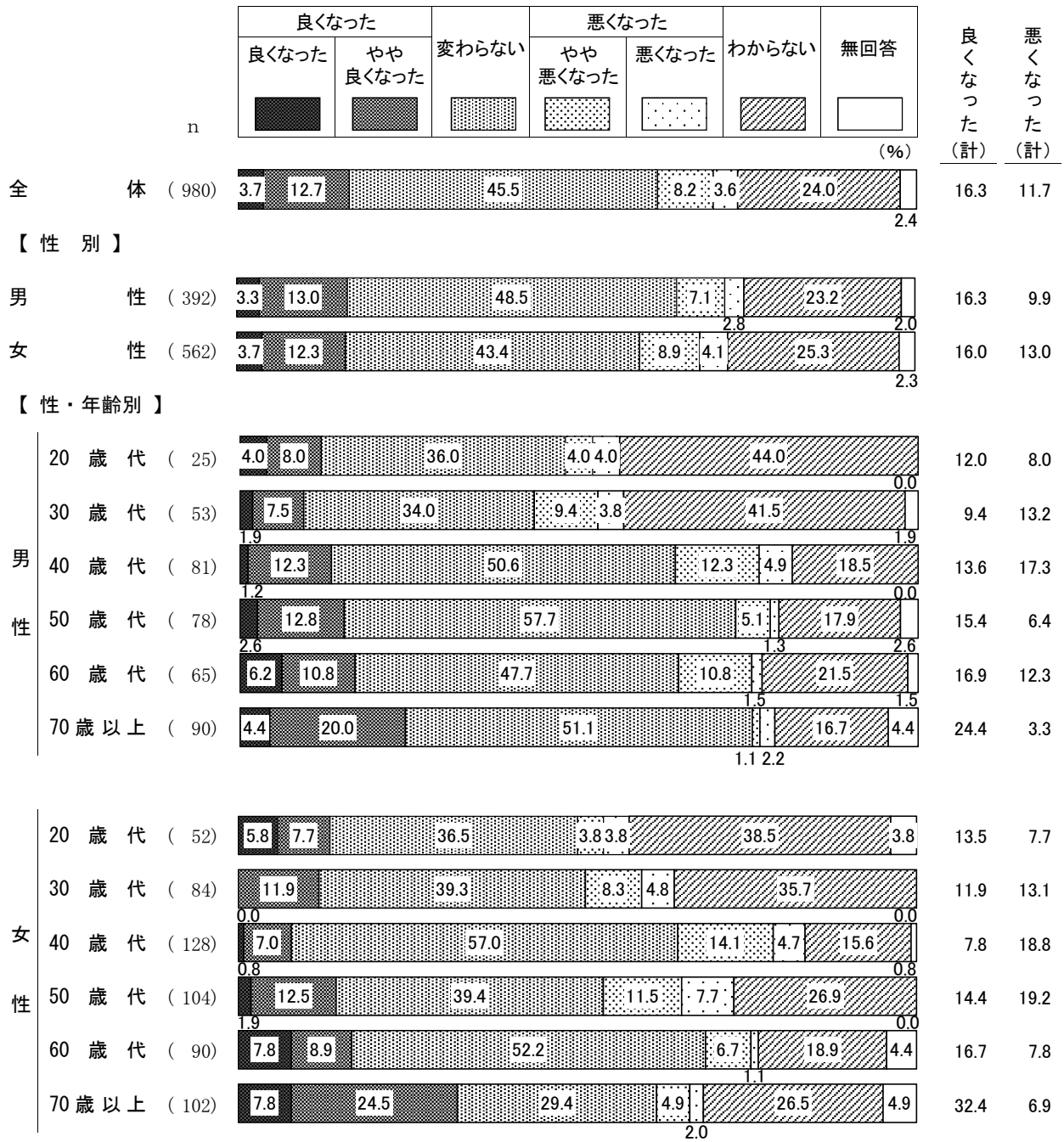
区の治安について、過去（5年程度）と比べてどのように感じるか聞いたところ、「変わらない」（45.5%）が4割半ば、「良くなった」（3.7%）と「やや良くなった」（12.7%）を合わせた『良くなった』（16.3%）は1割半ばとなっている。一方、「やや悪くなった」（8.2%）と「悪くなった」（3.6%）を合わせた『悪くなった』（11.7%）は1割近くとなっている。（図3-1-1）

図3-1-2 過去（5年程度）と比較しての区の治安—地区別



地区別にみると、『良くなった』はII地区（〒177）で2割近くになっている。III地区（〒178）は「変わらない」が5割半ばと多くなっている。（図3-1-2）

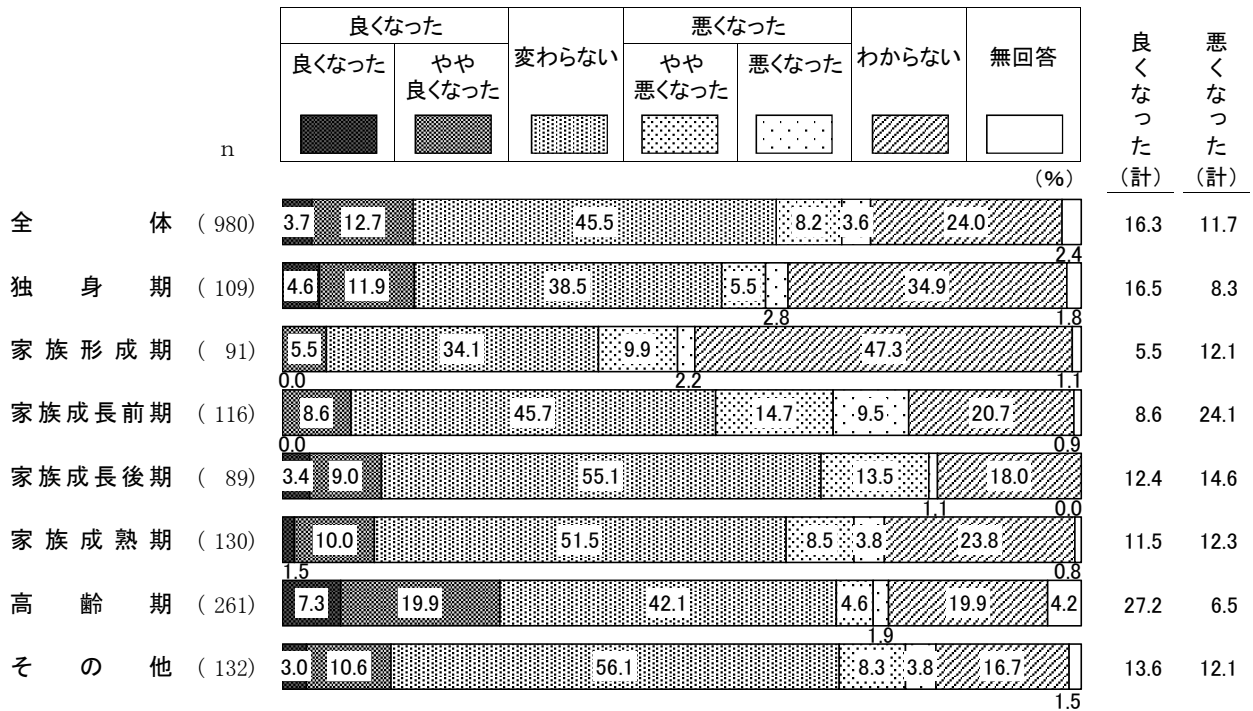
図3-1-3 過去（5年程度）と比較しての区の治安—性別／性・年齢別



性別にみると、『良くなった』は大きな傾向の違いはみられないが、『悪くなった』は女性の方が3.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、男性は30歳代以降、女性は40歳代以降で高い年代ほど『良くなった』の割合が多い傾向であり、いずれも70歳代で最も多くなっている。（図3-1-3）

図3-1-4 過去（5年程度）と比較しての区の治安－ライフステージ別



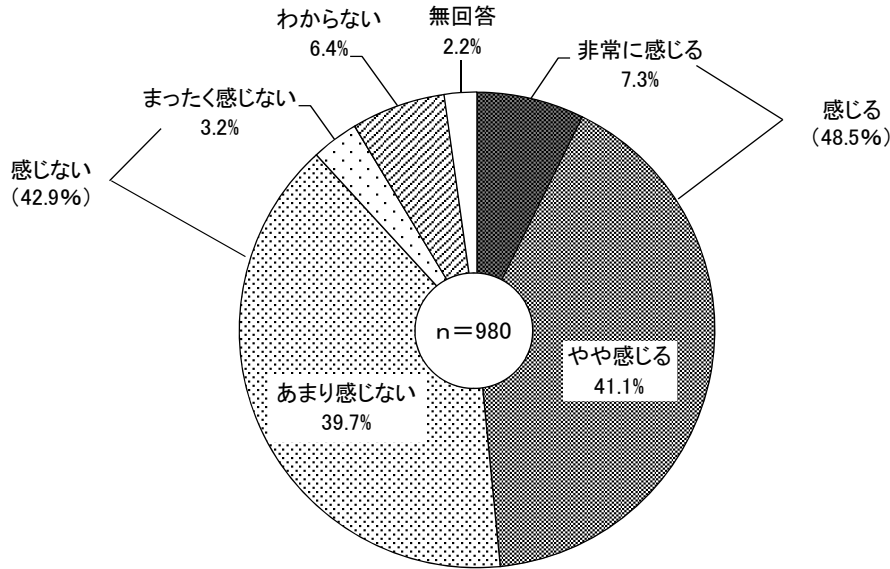
ライフステージ別にみると、『良くなった』は家族形成期以降でステージが上がるほど多い傾向となっており、高齢期では3割近くとなっている。独身期、家族形成期は「わからない」がそれぞれ3割半ば、5割近くと多くなっている。(図3-1-4)

(2) 区において自分や身近な人が犯罪被害に遭うかもしれない不安

◇『感じる』が5割近く

問22 区において、自分もしくは身近な人が何らかの犯罪被害に遭うかもしれないという不安を感じますか。(○は1つ)

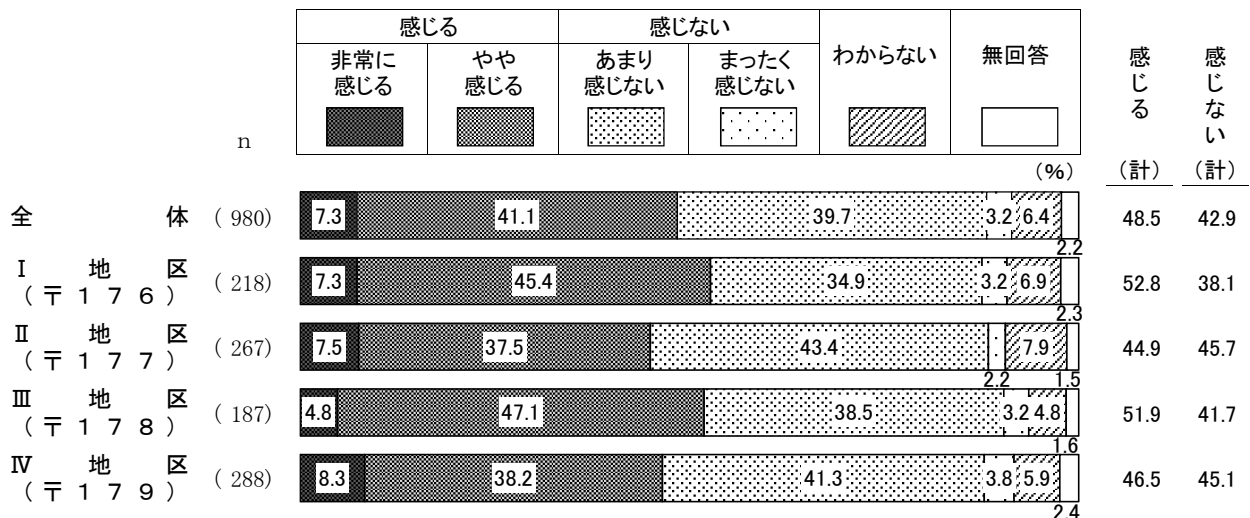
図3-2-1 区において自分や身近な人が犯罪被害に遭うかもしれない不安



区において、自分もしくは身近な人が何らかの犯罪被害に遭うかもしれない不安を感じるか聞いたところ、「非常に感じる」(7.3%)と「やや感じる」(41.1%)を合わせた『感じる』(48.5%)は5割近くとなっている。一方、「あまり感じない」(39.7%)、「まったく感じない」(3.2%)を合わせた『感じない』(42.9%)が4割を超え、二分している。

(図3-2-1)

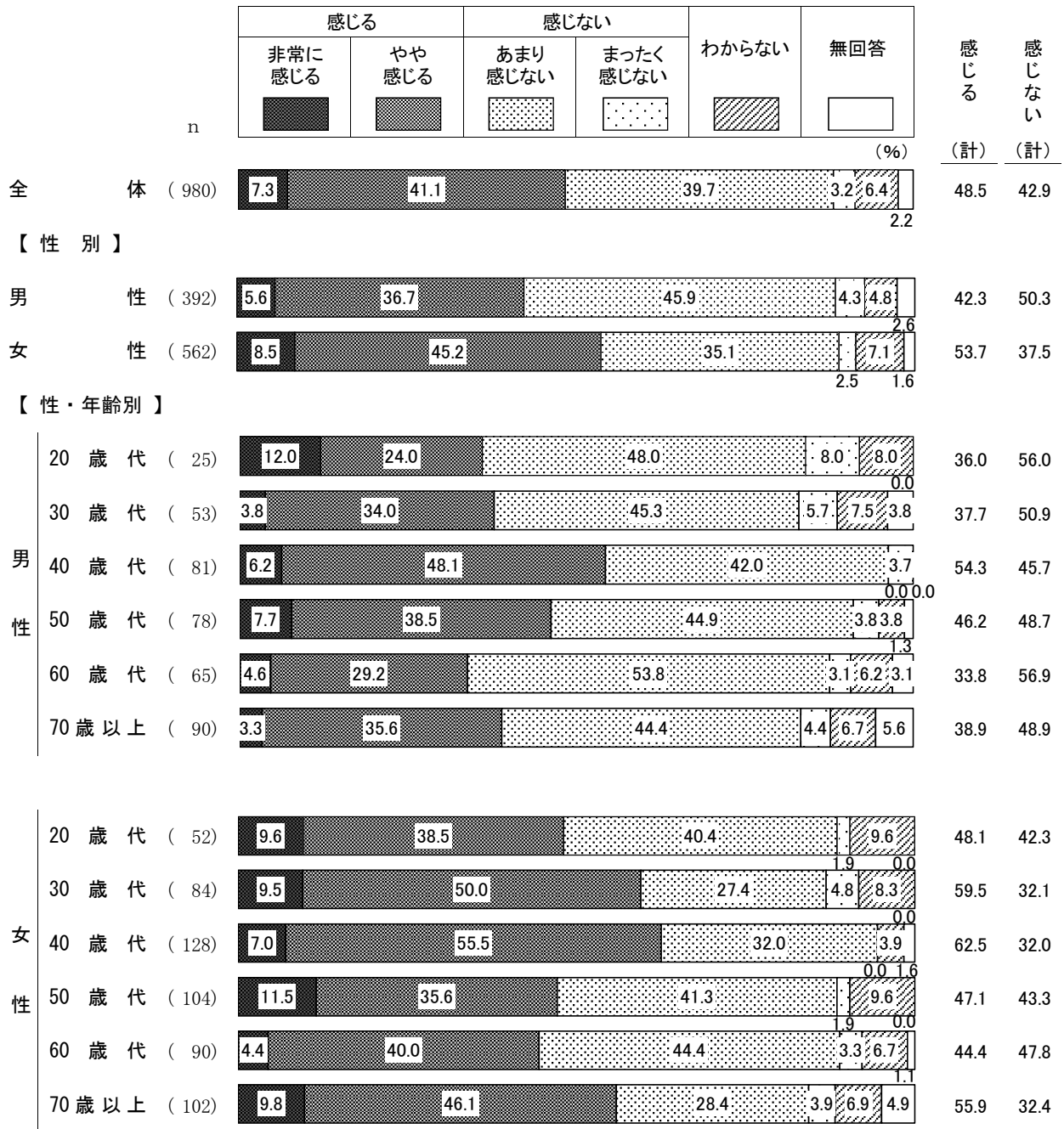
図3-2-2 区において自分や身近な人が犯罪被害に遭うかもしれない不安—地区別



地区別にみると、『感じる』はI地区(〒176)とIII地区(〒178)で5割を超えている。II地区(〒177)は『感じる』より『感じない』の方がわずかであるが上回っている。

(図3-2-2)

図3-2-3 区において自分や身近な人が犯罪被害に遭うかもしれない不安—性別／性・年齢別

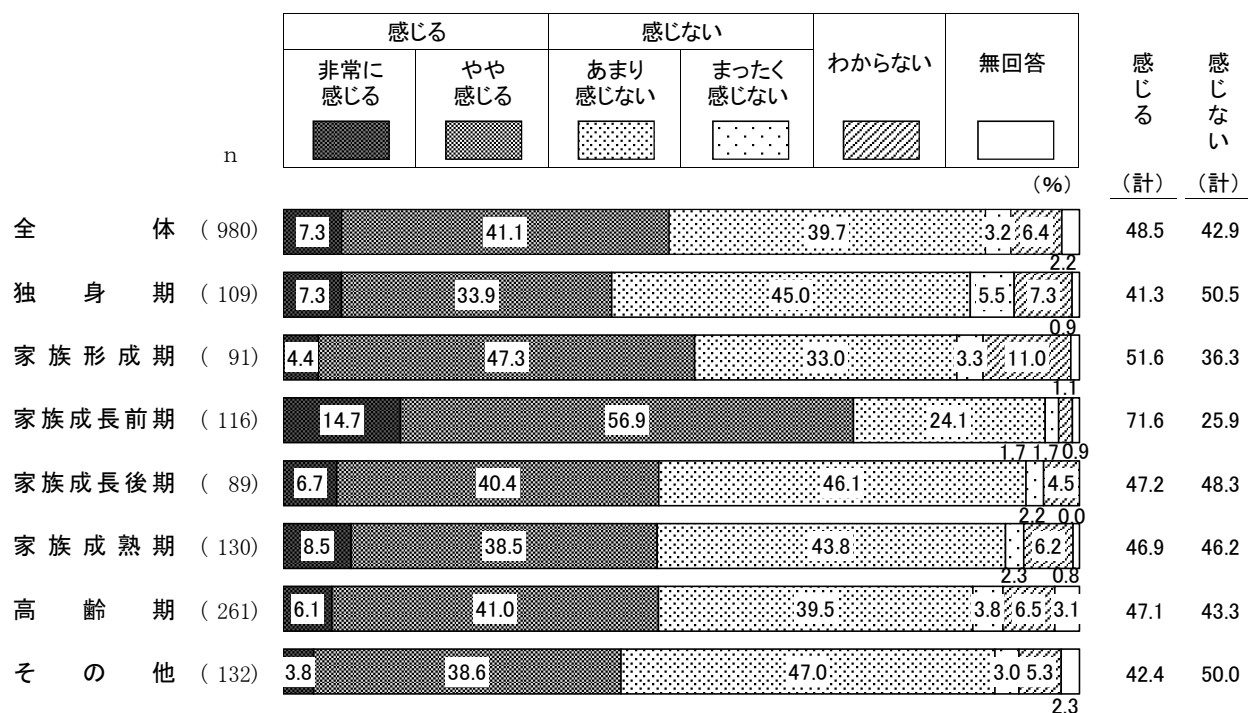


性別にみると、『感じる』は女性の方が11.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『感じる』は女性40歳代で最も多く、6割を超えており、次いで女性30歳代でも6割近くとなっている。男性は40歳代を除く世代で『感じる』より『感じない』が上回っているが、女性は60歳代を除く世代で『感じない』より『感じる』が上回っている。

(図3-2-3)

図3-2-4 区において自分や身近な人が犯罪被害に遭うかもしれない不安—ライフステージ別



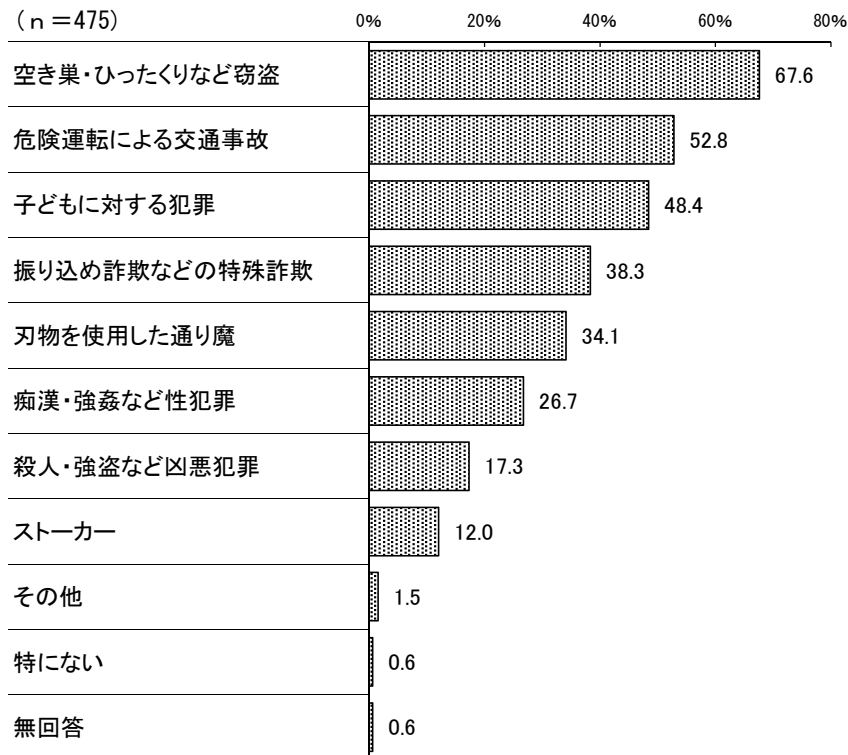
ライフステージ別にみると、『感じる』は家族成長前期で7割を超えて多くなっており、家族形成期がほぼ5割と次いでいる。(図3-2-4)

(2-1) 自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと感じる犯罪

◇「空き巣・ひったくりなど窃盗」が7割近く

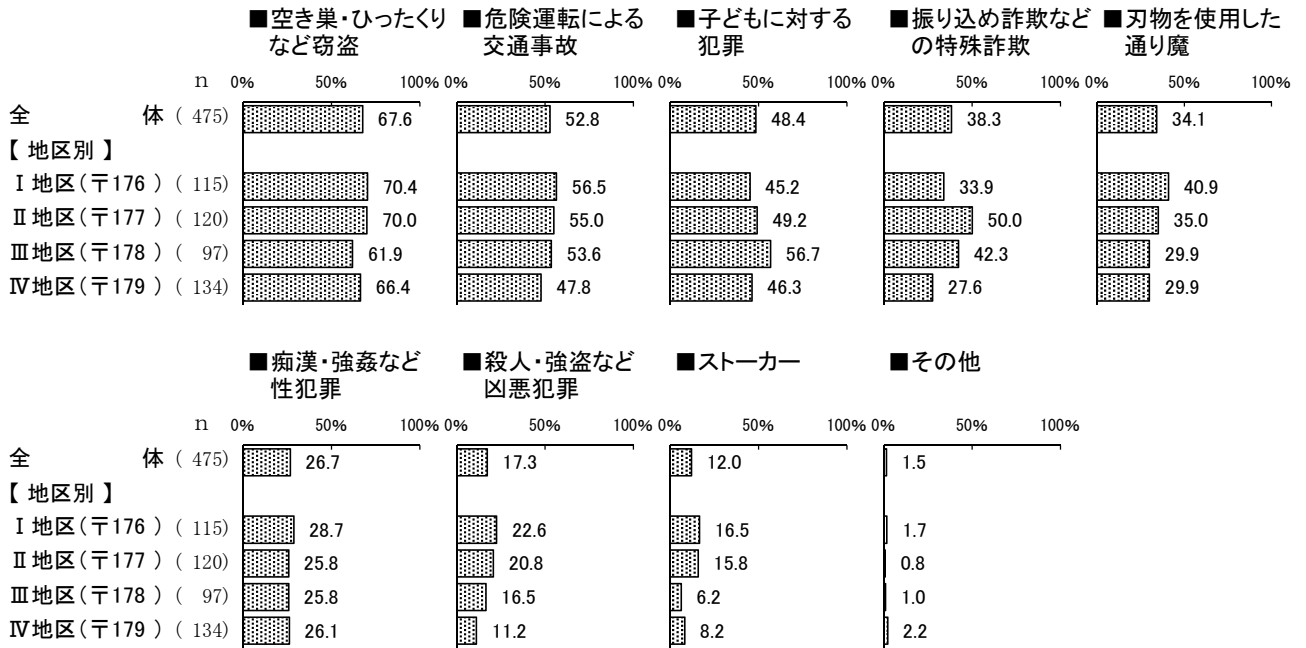
(問22で「1. 非常に感じる」または「2. やや感じる」と答えた方へ)
問22-1 区において、自分もしくは身近な人が何らかの犯罪被害に遭うかもしれないという不安を感じるのはどのような犯罪ですか。(〇はいくつでも)

図3-2-5 自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと感じる犯罪



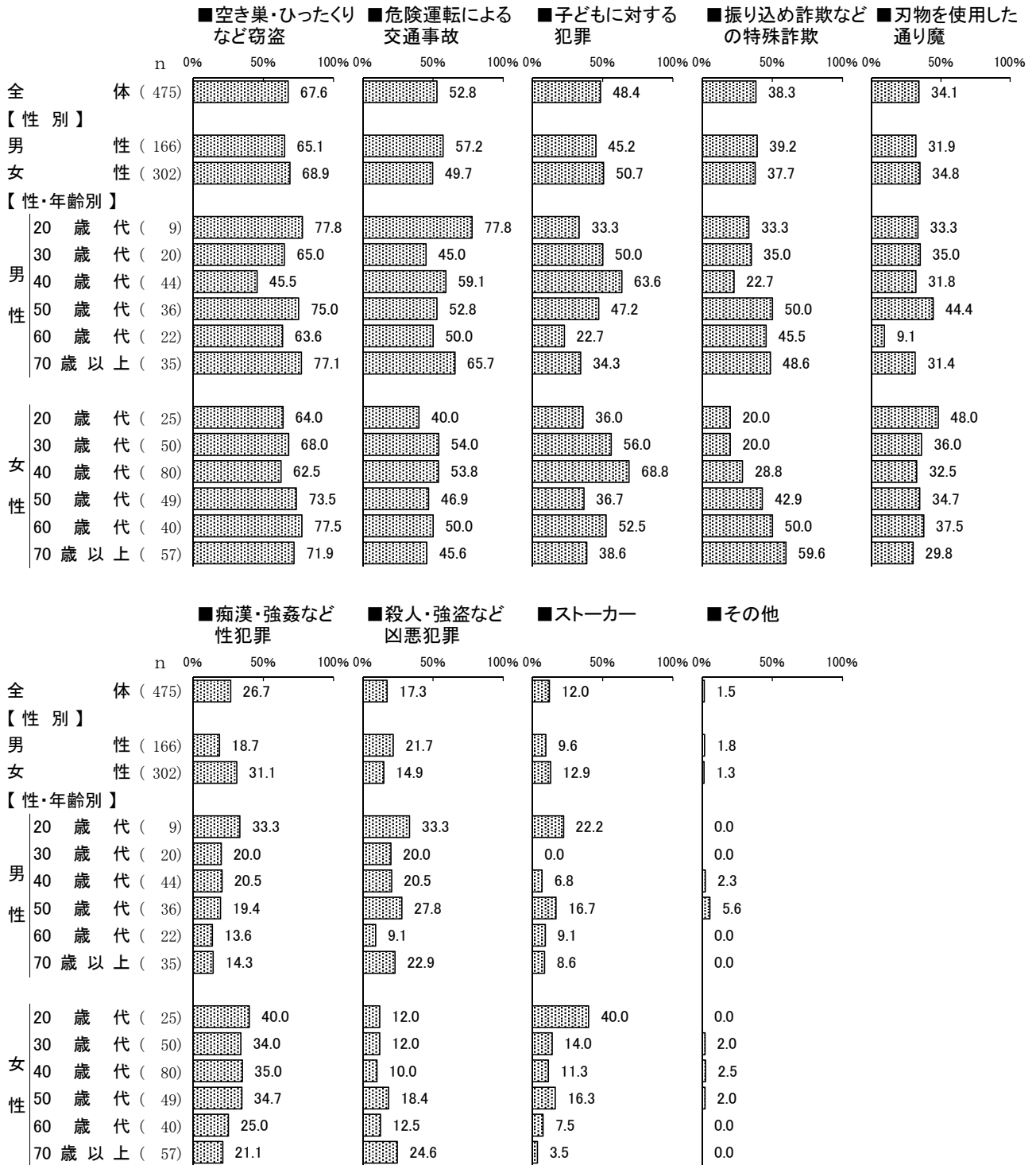
自分や身近な人が犯罪被害に遭う不安を「非常に感じる」または「やや感じる」と答えた方(475人)に被害に遭うかもしれないと感じる犯罪について聞いたところ、「空き巣・ひったくりなど窃盗」(67.6%)が7割近くと最も多く、次いで「危険運転による交通事故」(52.8%)、「子どもに対する犯罪」(48.4%)、「振り込め詐欺などの特殊詐欺」(38.3%)、「刃物を使用した通り魔」(34.1%)などの順となっている。(図3-2-5)

図3-2-6 自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと感じる犯罪—地区別



地区別にみると、「子どもに対する犯罪」はIII地区（〒178）で5割半ば、「振り込め詐欺などの特殊詐欺」はII地区（〒177）で5割と多くなっており、それ以外は全般にI地区（〒176）で多くなっている。（図3-2-6）

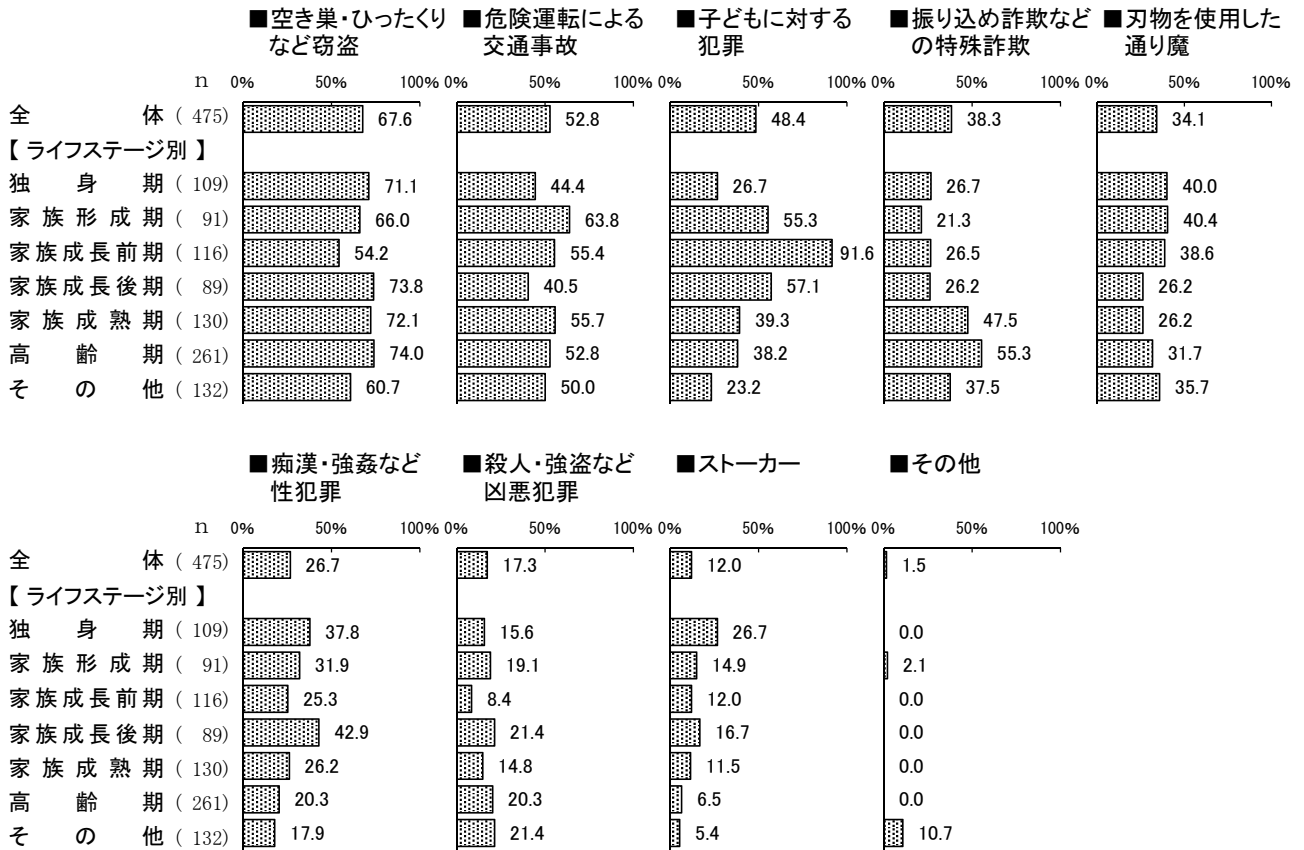
図3-2-7 自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと感じる犯罪—性別／性・年齢別



性別にみると、男性の方が「危険運転による交通事故」が7.5ポイント、「殺人・強盗など凶悪犯罪」が6.8ポイント高くなっている。一方、女性の方が「痴漢・強姦など性犯罪」が12.4ポイント、「子どもに対する犯罪」が5.5ポイント、「空き巣・ひったくりなど窃盗」が3.8ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「子どもに対する犯罪」は男女ともに40歳代で6割を超え、女性30歳代で5割半ばと多くなっている。「振り込め詐欺などの特殊詐欺」は男女ともに高い年代ほど多い傾向であり、女性70歳以上で6割近くと多くなっている。「刃物を使用した通り魔」、「痴漢・強姦など性犯罪」は男女ともに低い年代ほど多い傾向であり、女性20歳代で4割と多くなっている。(図3-2-7)

図3-2-8 自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと感じる犯罪—ライフステージ別



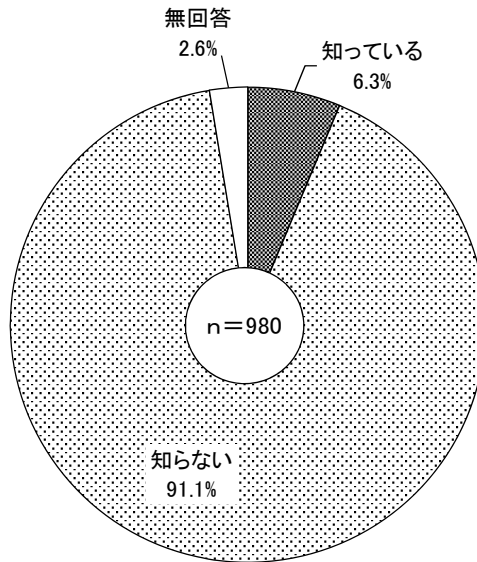
ライフステージ別にみると、「子どもに対する犯罪」は家族成長前期で9割を超え、家族形成期、家族成長後期で5割半ばと多くなっている。「振り込め詐欺などの特殊詐欺」は高齢期で5割半ば、家族成熟期で5割近くと多くなっている。(図3-2-8)

(3) 7年連続で区の犯罪発生件数減少についての認知状況

◇「知らない」が9割を超える

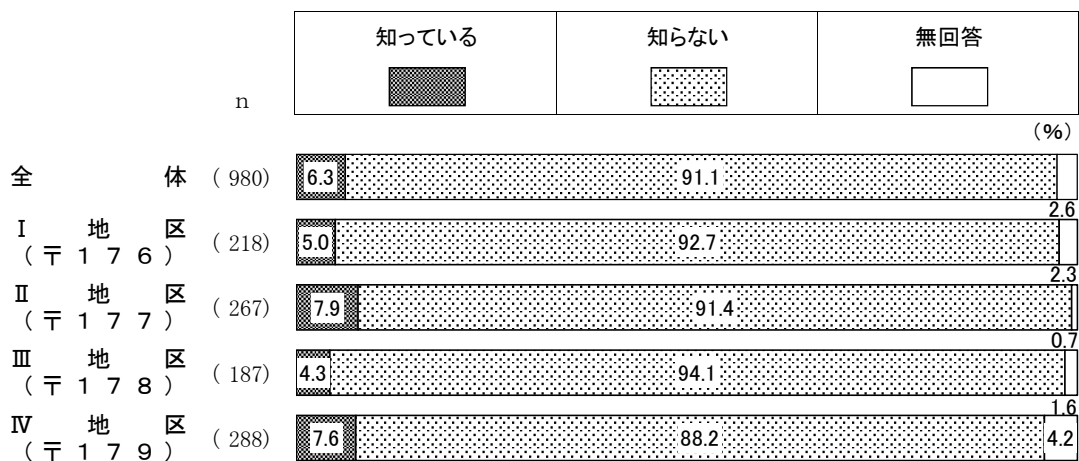
問23 平成18年以降、7年連続で、区における犯罪発生件数が減少していることは知っていますか。(○は1つ)

図3-3-1 7年連続で区の犯罪発生件数減少についての認知状況



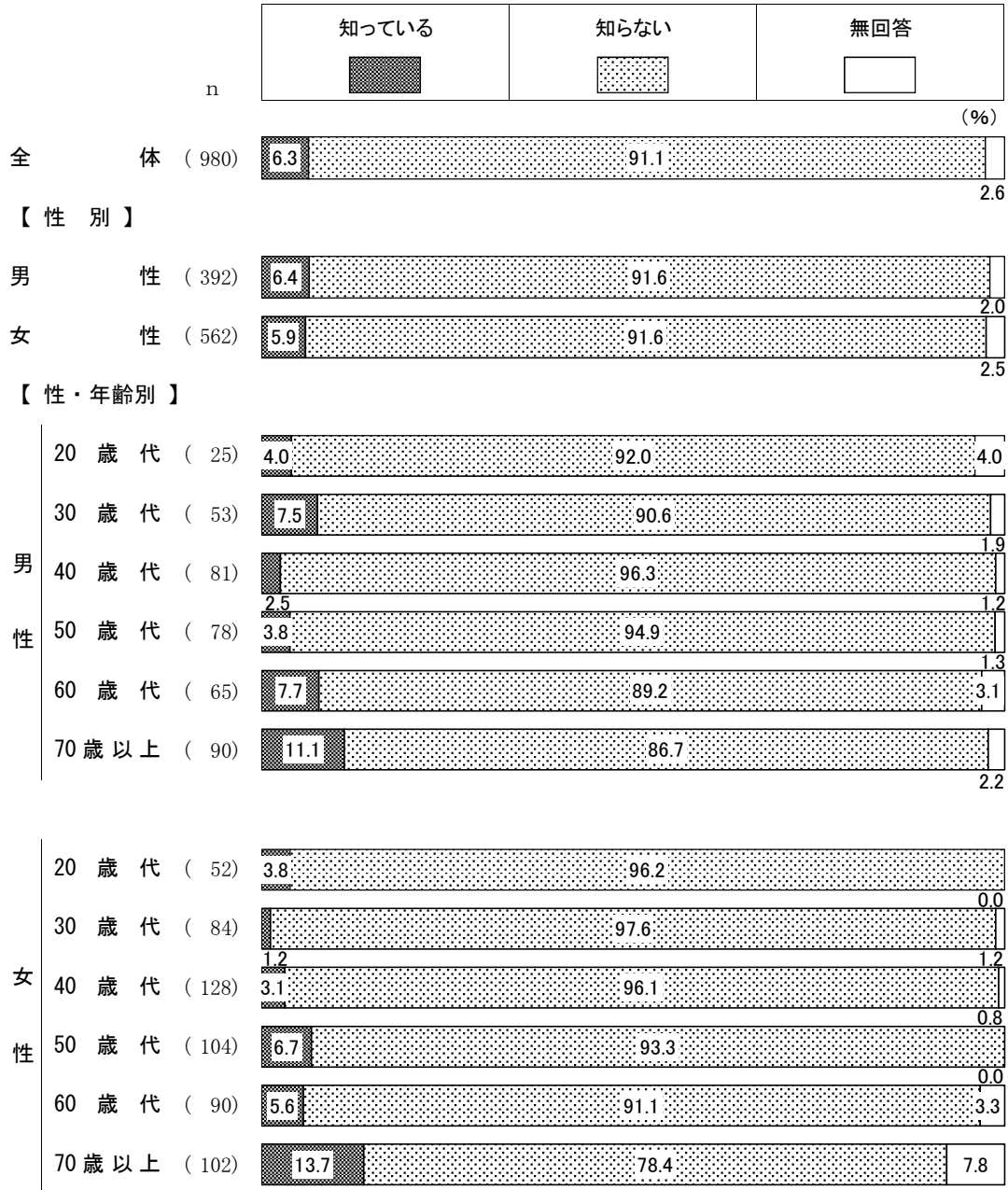
平成18年以降、7年連続で区の犯罪発生件数が減少していることについて知っているか聞いたところ、「知っている」(6.3%)は1割未満となっている。(図3-3-1)

図3-3-2 7年連続で区の犯罪発生件数減少についての認知状況—地区別



地区別にみると、地区の間で大きな傾向の違いは見られない。(図3-3-2)

図3-3-3 7年連続で区の犯罪発生件数減少についての認知状況－性別／性・年齢別



性別にみると、男女間で大きな傾向の違いはみられない。

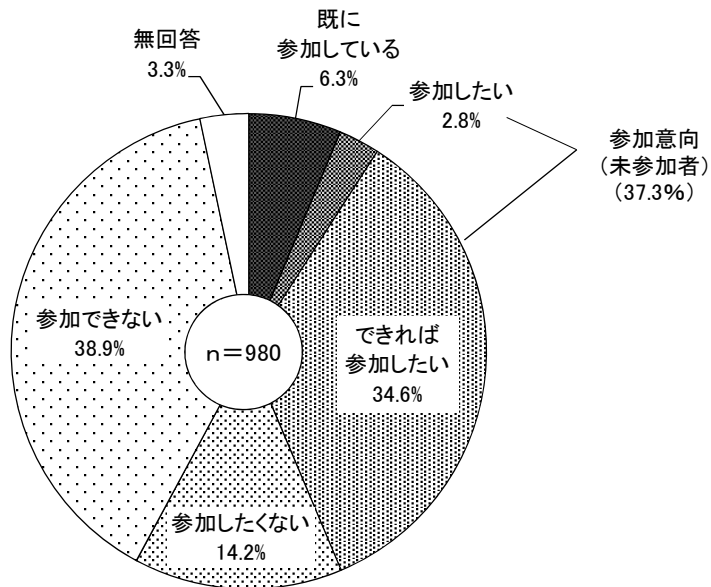
性・年齢別にみると、「知っている」は男女ともに70歳以上で1割を超えているが、それ以外の年代では1割に満たない結果となっている。(図3-3-3)

(4) 区の安全・安心（治安）活動の参加経験・参加意向

◇未参加者の『参加意向』は4割近く

問24 区では、地域の団体等により、防犯パトロールや清掃活動等さまざまな安全・安心（治安）に関する活動が行われていますが、そのような活動に参加したいと思いますか。（○は1つ）

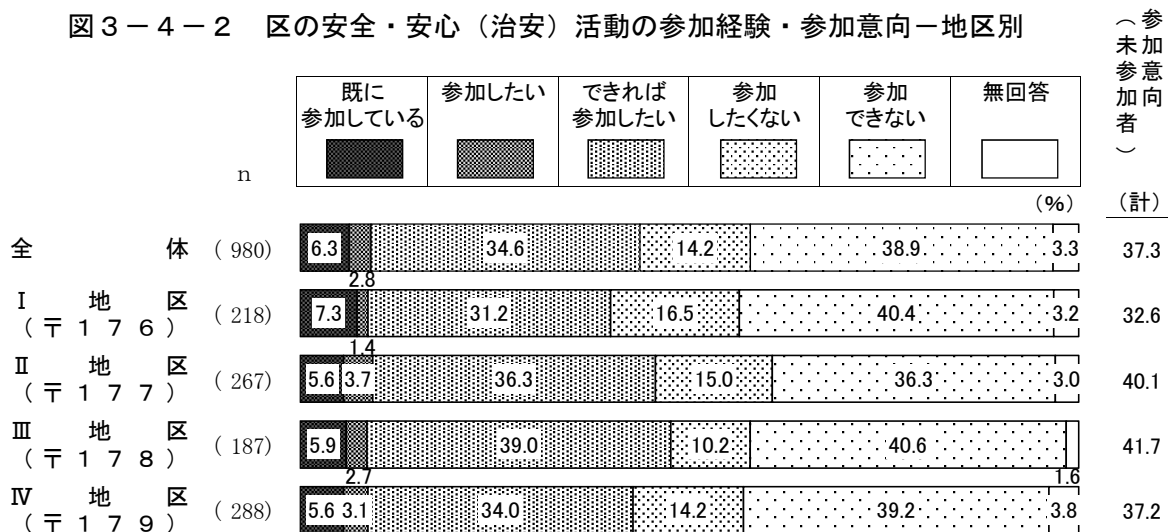
図3-4-1 区の安全・安心（治安）活動の参加経験・参加意向



区の安全・安心（治安）活動の参加経験・参加意向を聞いたところ、「既に参加している」（6.3%）は1割未満となっている。「参加したい」（2.8%）と「できれば参加したい」（34.6%）を合わせた『参加意向（未参加者）』（37.3%）は4割近くとなっている。

(図3-4-1)

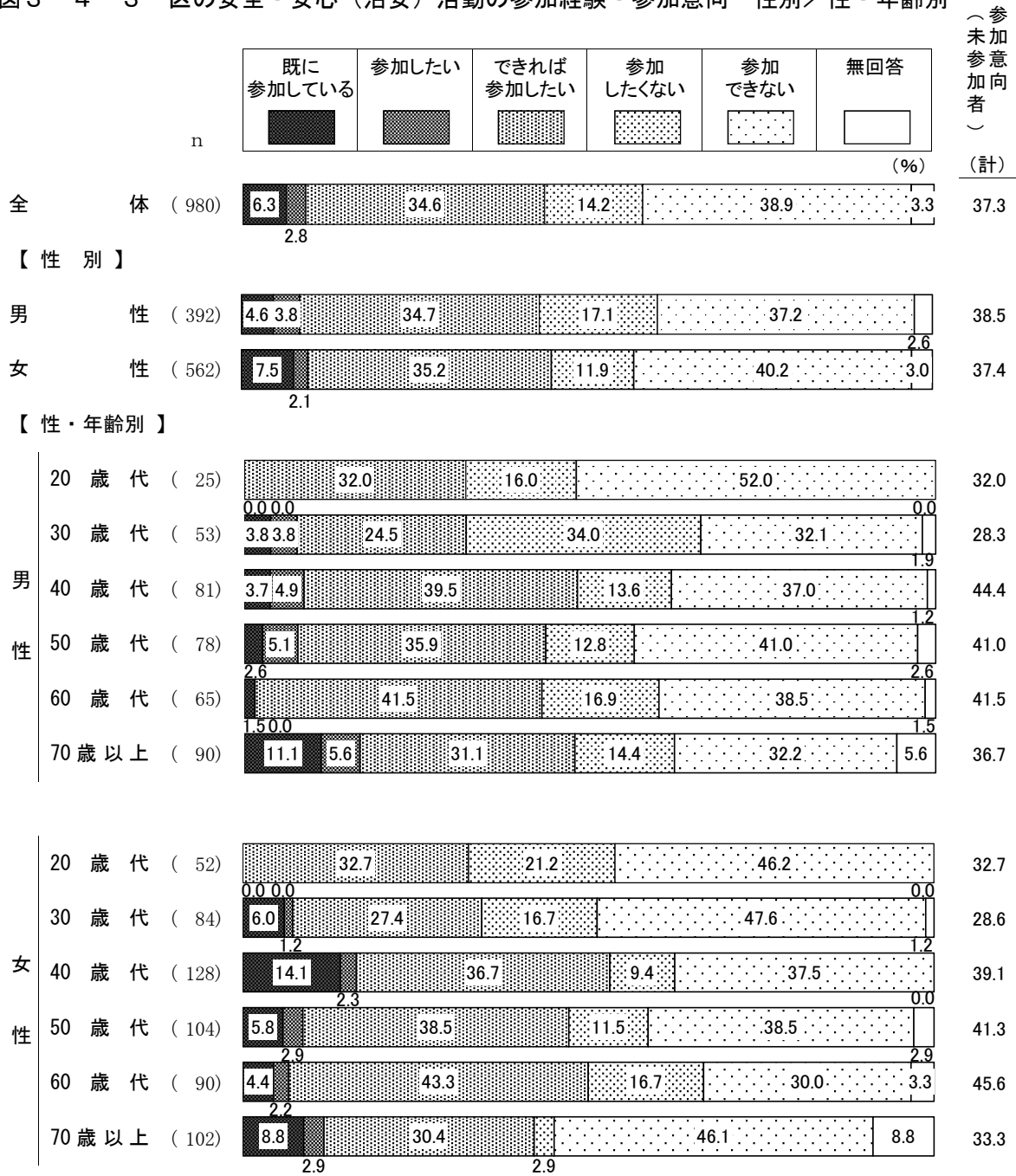
図3-4-2 区の安全・安心（治安）活動の参加経験・参加意向—地区別



地区別にみると、「既に参加している」は全ての地区で1割に満たない結果となっている。『参加意向（未参加者）』はII地区（〒177）、III地区（〒178）ではほぼ4割となっている。

(図3-4-2)

図3-4-3 区の安全・安心（治安）活動の参加経験・参加意向—性別／性・年齢別

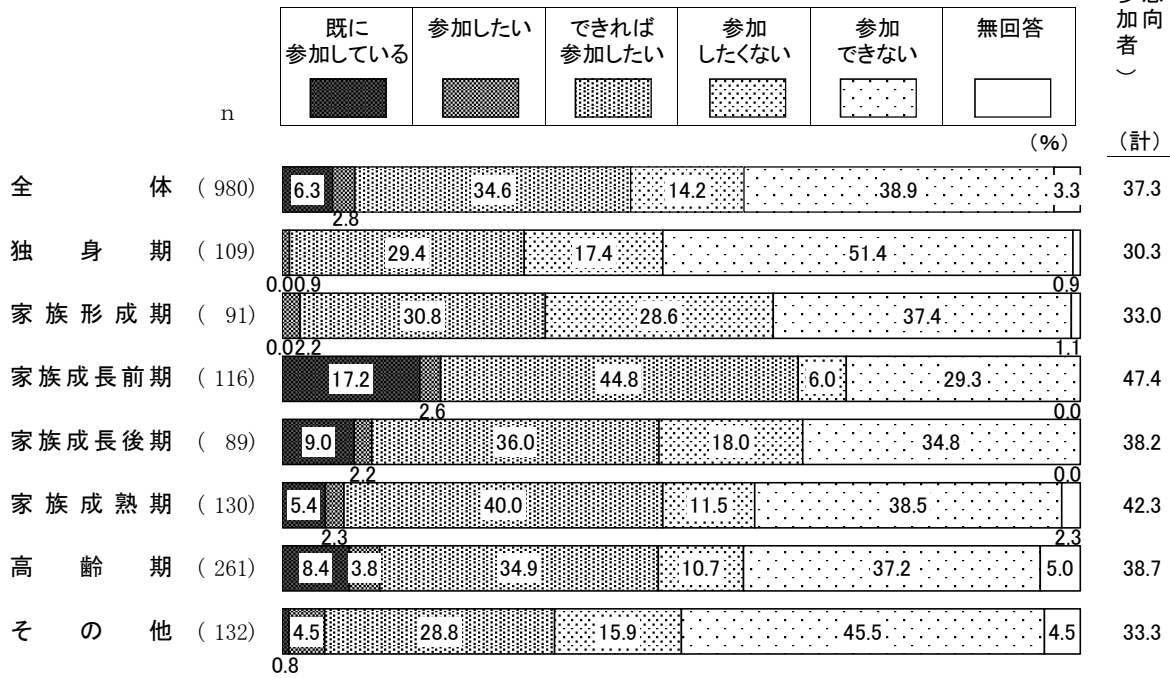


性別にみると、「既に参加している」は女性の方が2.9ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「既に参加している」は女性40歳代で1割半ば、男性70歳以上でほぼ1割となっている。『参加意向（未参加者）』は男性40歳代から60歳代、女性50歳代、60歳代で4割を超えて多くなっており、男女ともに30歳代で3割未満と少なくなっている。

(図3-4-3)

図3-4-4 区の安全・安心（治安）活動の参加経験・参加意向－ライフステージ別（参加意向者）



ライフステージ別にみると、「既に参加している」は家族成長前期で2割近く、次いで家族成長後期で1割近くとなっている。また、『参加意向（未参加者）』は家族成長前期で5割近くと多くなっている。（図3-4-4）

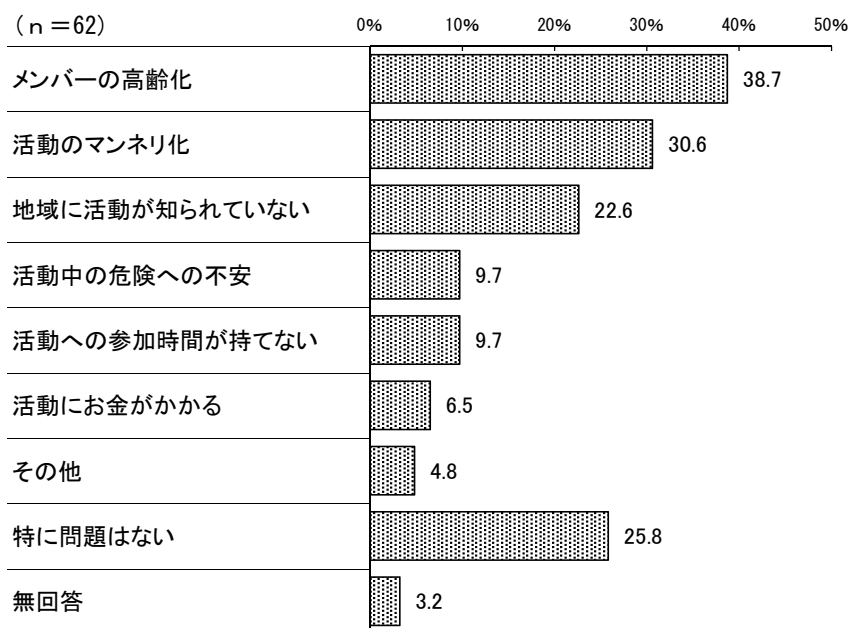
(4-1) 区の安全・安心（治安）活動参加時に感じる問題

◇「メンバーの高齢化」が4割近く

(問24で「1. 既に参加している」と答えた方へ)

問24-1 区の安全・安心（治安）に関する活動に参加して、問題に感じていることはありますか。(〇はいくつでも)

図3-4-5 区の安全・安心（治安）活動参加時に感じる問題



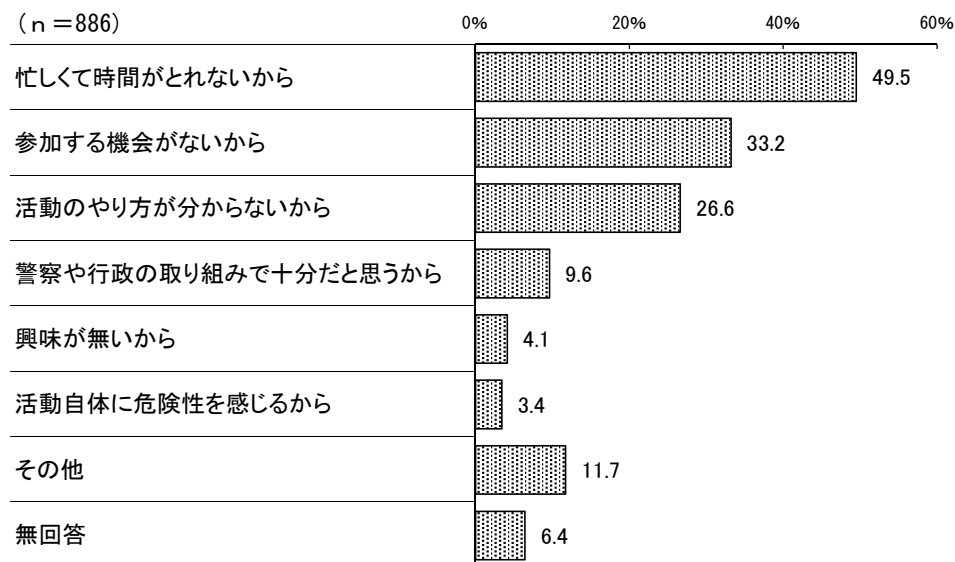
区の安全・安心（治安）活動に「既に参加している」と答えた方（62人）に活動に参加して問題に感じていることを聞いたところ、「メンバーの高齢化」（38.7%）が4割近くと最も多く、次いで「活動のマンネリ化」（30.6%）、「地域に活動が知られていない」（22.6%）などの順となっている。（図3-4-5）

(4-2) 区的安全・安心(治安)活動に参加しない・参加できない理由

◇「忙しくて時間がとれないから」が5割

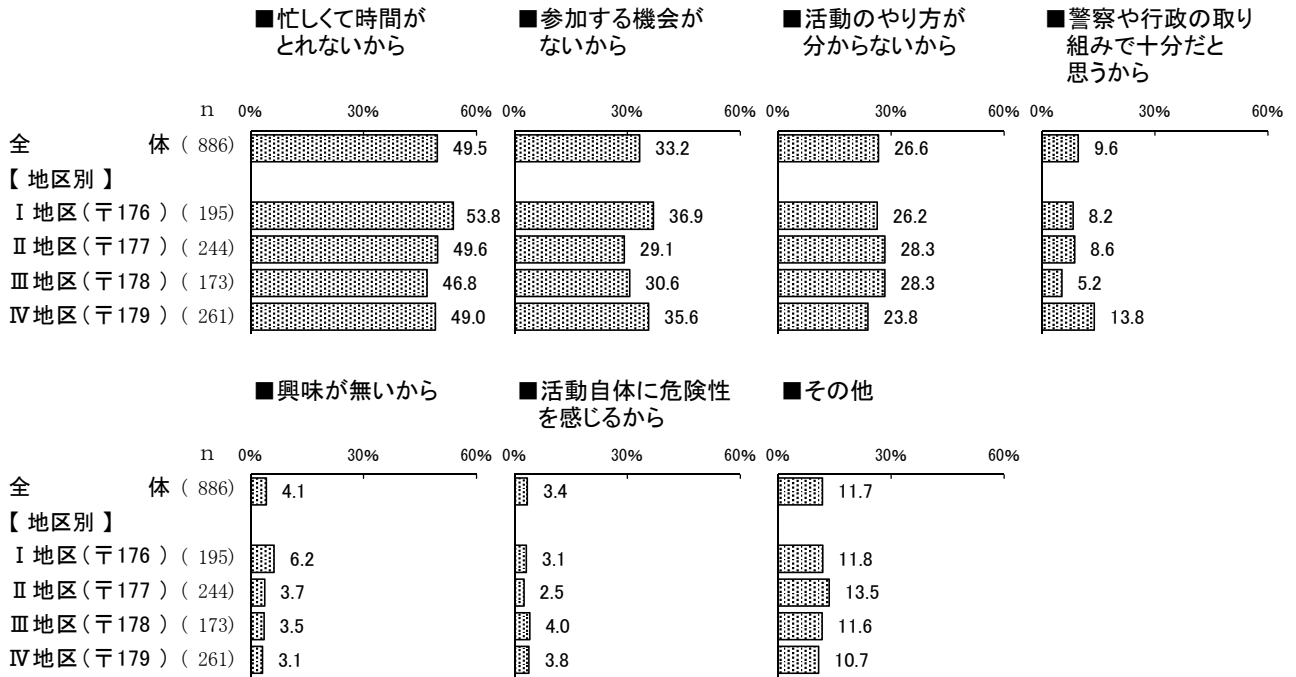
(問24で「2. 参加したい」～「5. 参加できない」と答えた方へ)
問24-1 区的安全・安心(治安)に関する活動に参加しない・できない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図3-4-6 区的安全・安心(治安)活動に参加しない・参加できない理由



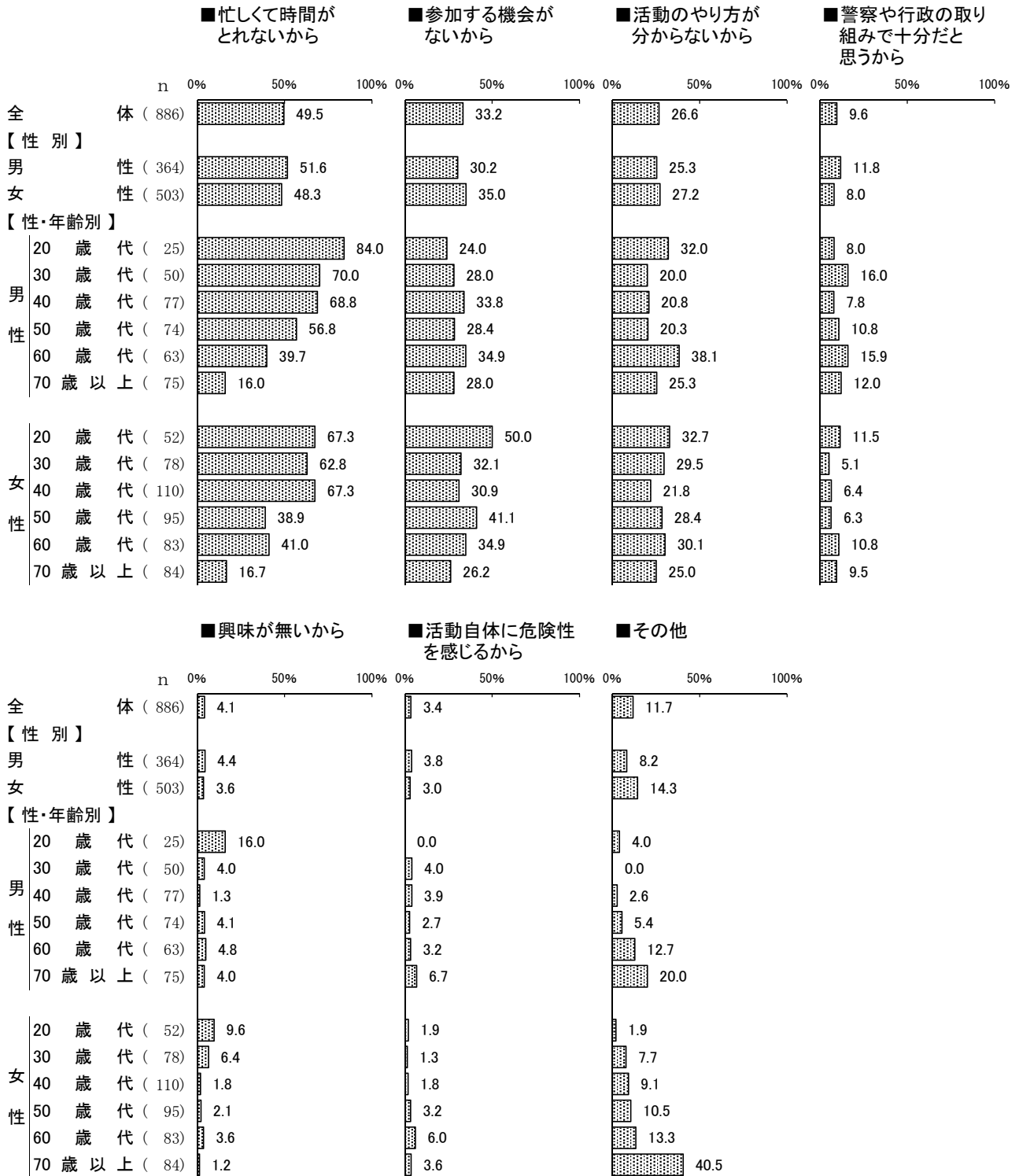
区的安全・安心(治安)活動に「参加したい」～「参加できない」と答えた方(886人)に活動しない・できない理由を聞いたところ、「忙しくて時間がとれないから」(49.5%)がほぼ5割と最も多く、次いで「参加する機会がないから」(33.2%)、「活動のやり方がわからないから」(26.6%)などの順となっている。(図3-4-6)

図3-4-7 区の安全・安心(治安)活動に参加しない・参加できない理由—地区別



地区別にみると、「忙しくて時間がとれないから」はI地区（〒176）で5割を超えている。「参加する機会がないから」はI地区（〒176）、IV地区（〒179）で3割半ばとなっている。
 (図3-4-7)

図3-4-8 区の安全・安心(治安)活動に参加しない・参加できない理由—性別／性・年齢別

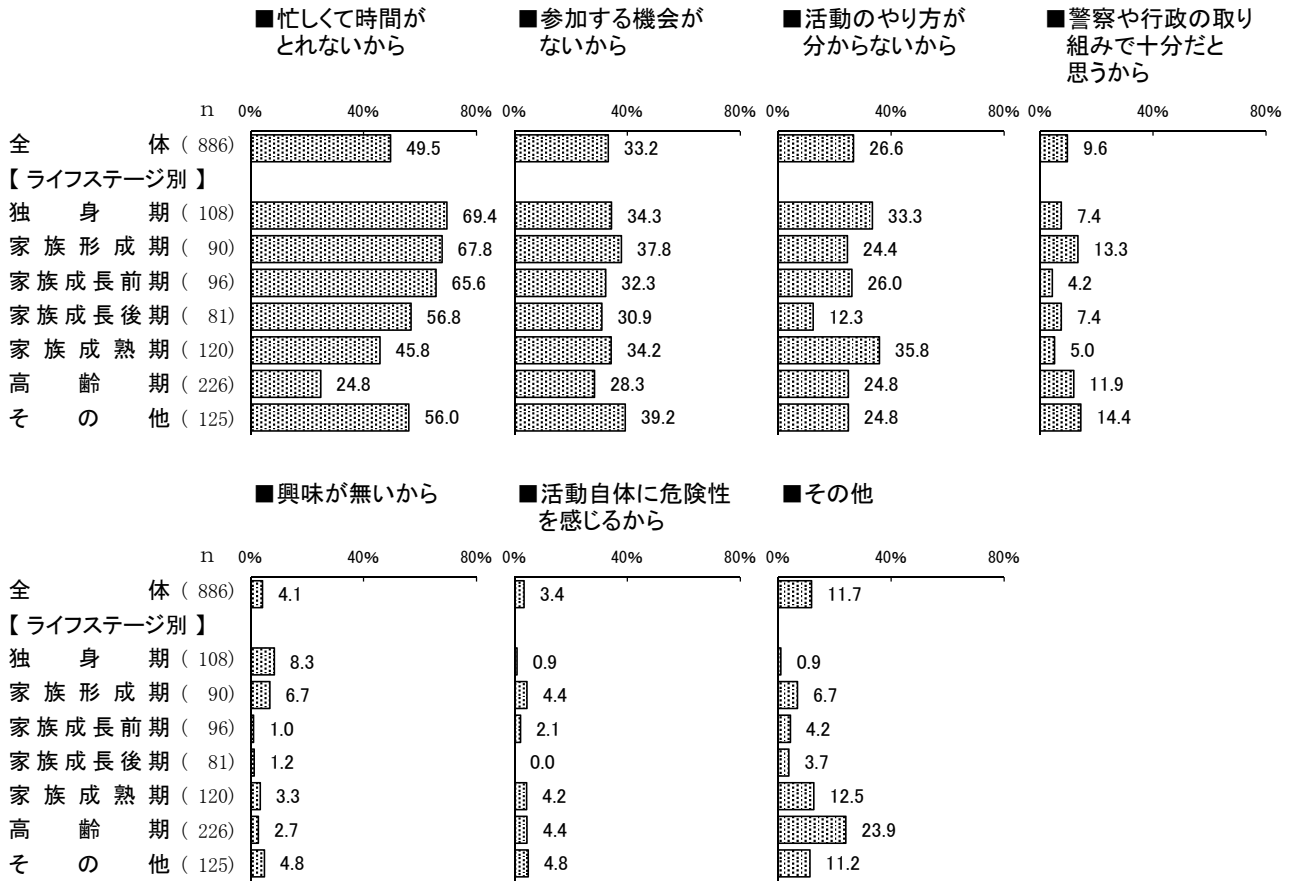


性別にみると、男性の方が「忙しくて時間がとれないから」が3.3ポイント、「警察や行政の取り組みで十分だと思うから」が3.8ポイント高く、女性の方が「参加する機会がないから」が4.8ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「忙しくて時間がとれないから」と回答した割合は男女ともに低い年代ほど多い傾向となっている。「その他」は高い年代ほど多い傾向となっており、60歳代や70歳以上は「その他」に年齢や身体・健康上の理由を挙げる人が多くなっている。

(図3-4-8)

図3-4-9 区の安全・安心(治安)活動に参加しない・参加できない理由—ライフステージ別



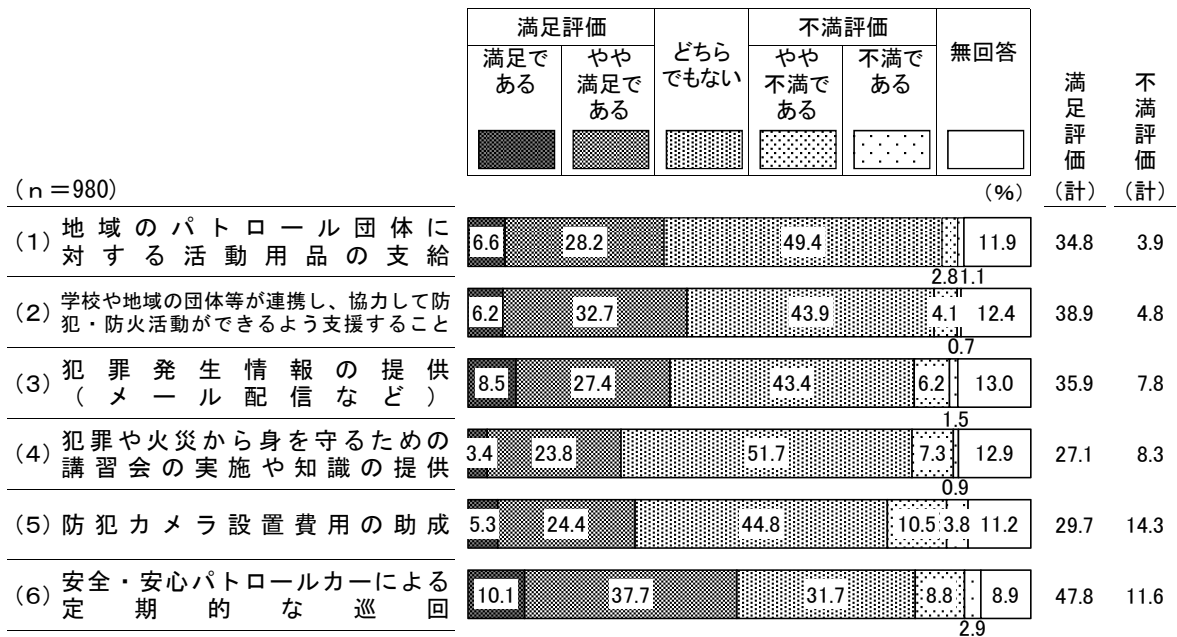
ライフステージ別にみると、「忙しくて時間がとれないから」は独身期でほぼ7割と多く、ステージが上がるにつれて少なくなっている。(図3-4-9)

(5) 区の安全・安心施策の満足度

◇『満足評価』は「安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回」が5割近く

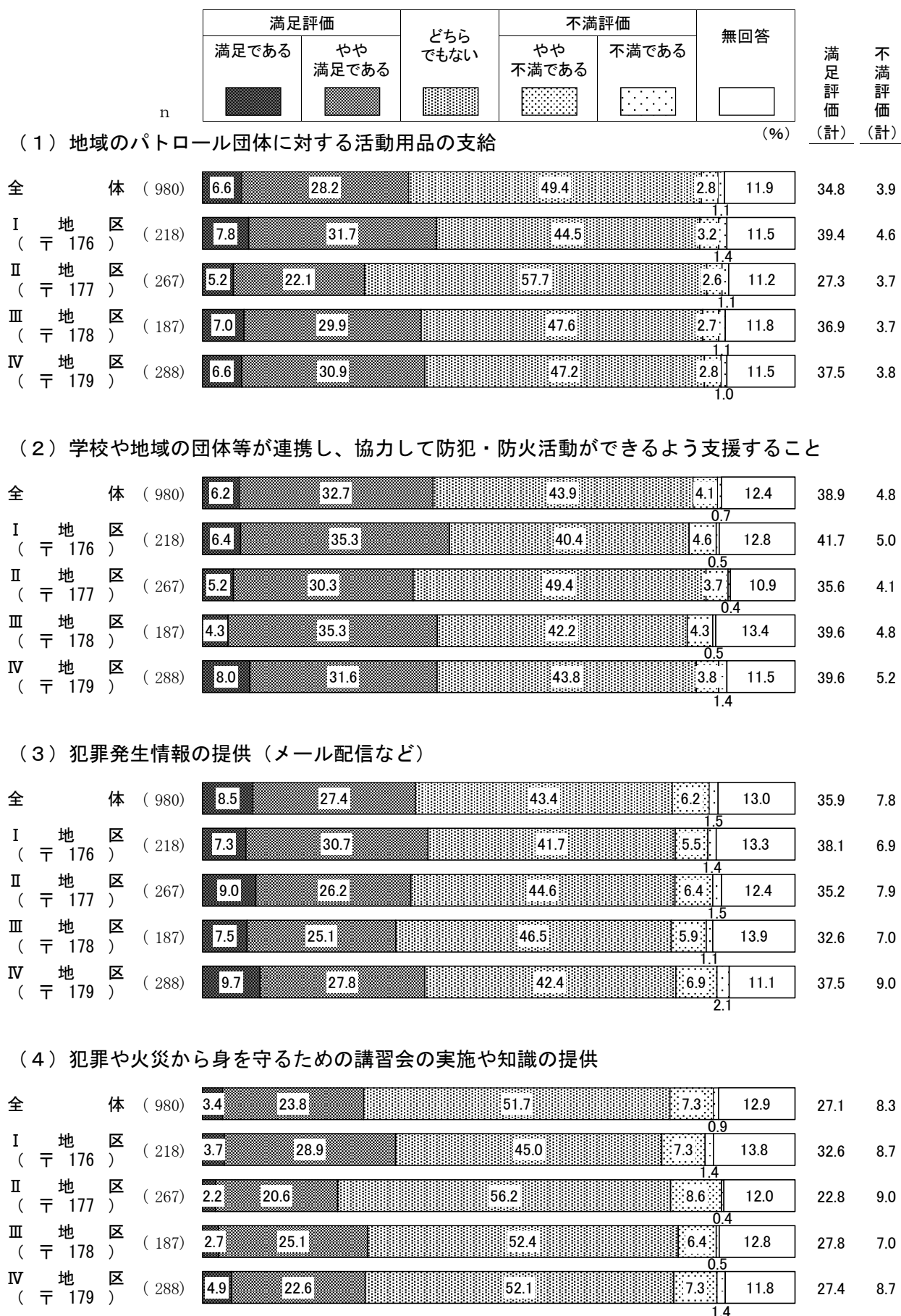
問25 地域の安全・安心を推進する現在の区の活動に対して、あなたはどの程度満足していますか。次の(1)～(6)の項目ごとに、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

図3-5-1 区の安全・安心施策の満足度



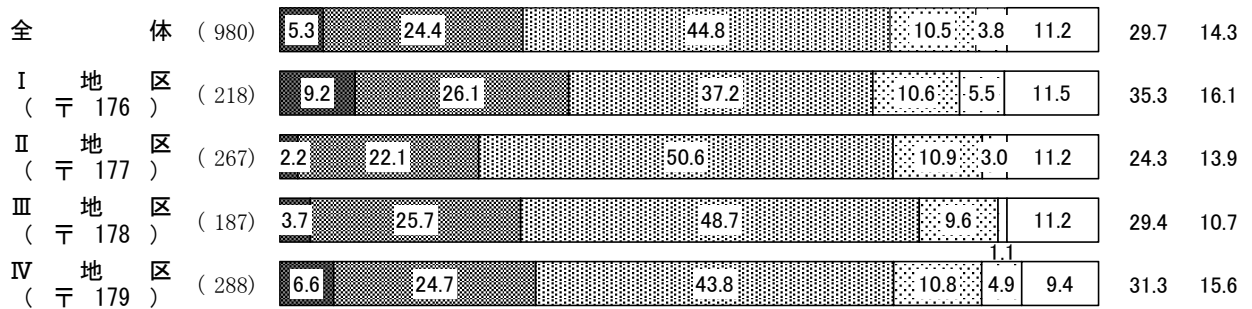
区の安全・安心施策に対する満足度について、6項目に分けて聞いたところ、「満足である」と「やや満足である」を合わせた『満足評価』の割合は、(6)安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回(47.8%)が5割近くと最も多く、次いで(2)学校や地域の団体等が連携し、協力して防犯・防火活動ができるよう支援すること(38.9%)、(3)犯罪発生情報の提供(メール配信など)(35.9%)などの順となっている。一方、「やや不満である」と「不満である」を合わせた『不満評価』の割合は、(5)防犯カメラ設置費用の助成(14.3%)、(6)安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回(11.6%)が1割台となっている。(図3-5-1)

図3-5-2 区の安全・安心施策の満足度—地区別

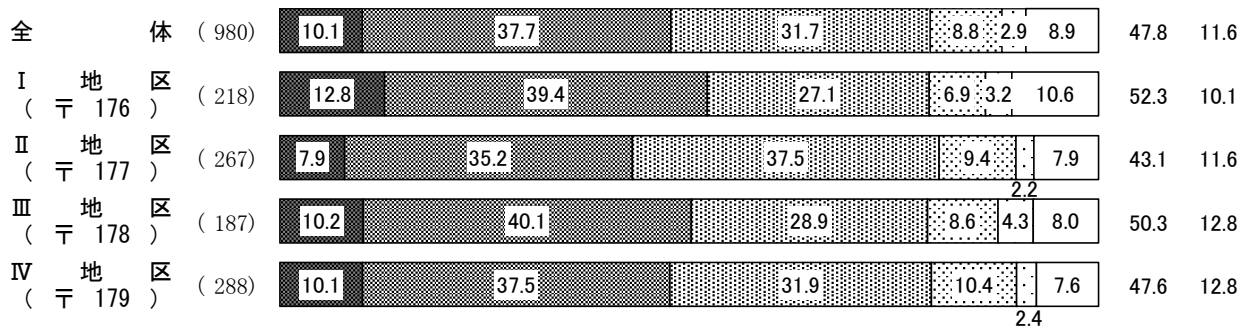


n	満足評価		どちら でもない	不満評価		無回答	満足 評価 (計)	不満 評価 (計)
	満足である	やや 満足である		やや 不満である	不満である			

(5) 防犯カメラ設置費用の助成



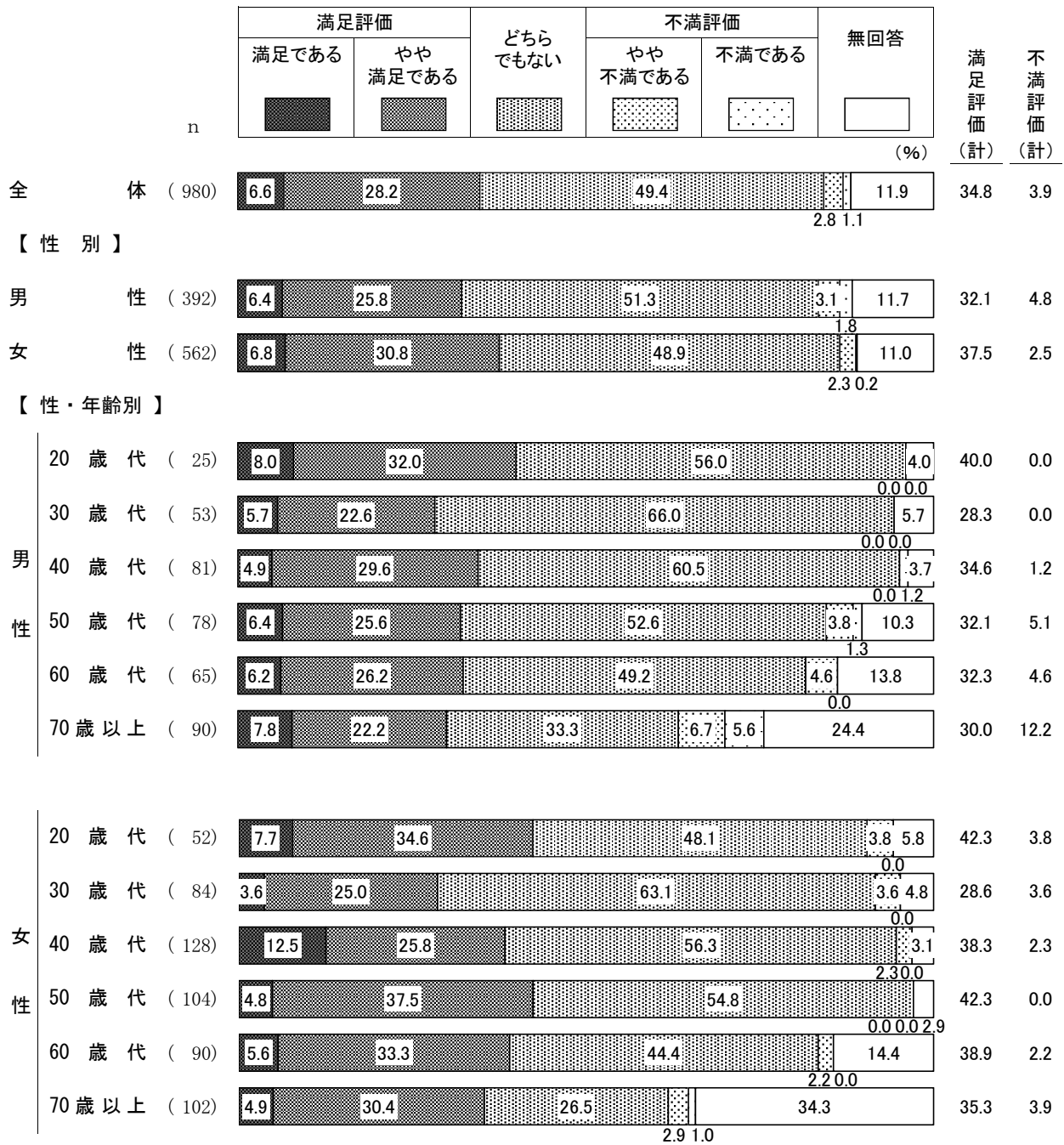
(6) 安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回



地区別にみると、(1) 地域のパトロール団体に対する活動用品の支給から (6) 安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回の6項目すべてにおいて、『満足評価』はI地区(〒176)が最も多くなっている。(3) 犯罪発生情報の提供(メール配信など)を除く5項目でII地区(〒177)の『満足評価』が最も少なくなっている。(図3-5-2)

図3-5-3 区の安全・安心施策の満足度—性別／性・年齢別

(1) 地域のパトロール団体に対する活動用品の支給

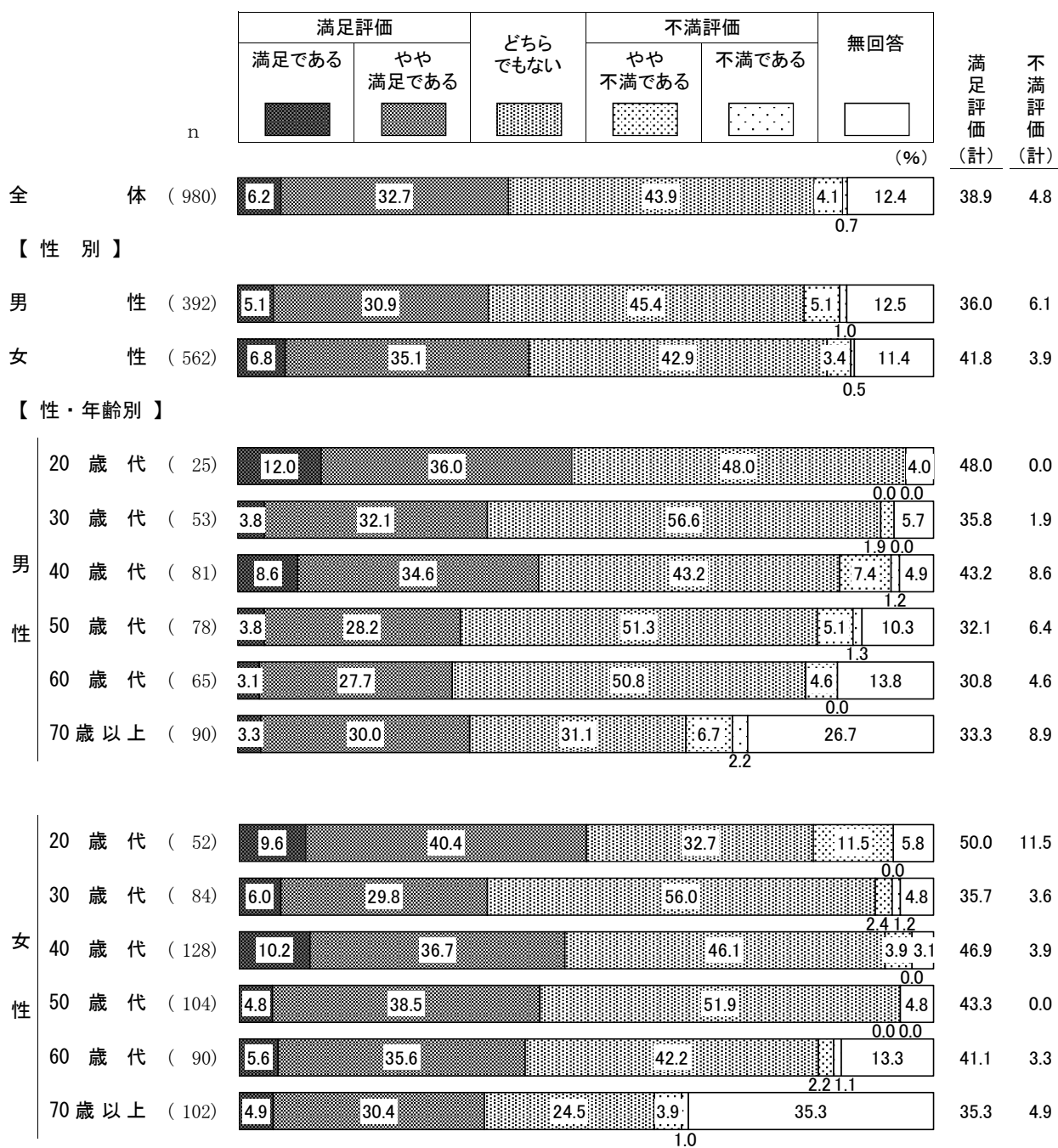


(1) 地域のパトロール団体に対する活動用品の支給について、性別にみると、『満足評価』は女性の方が5.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『満足評価』は男性20歳代、女性20歳代、女性50歳代で4割台となっている。(図3-5-3)

図3-5-4 区の安全・安心施策の満足度—性別／性・年齢別

(2) 学校や地域の団体等が連携し、協力して防犯・防火活動ができるよう支援すること

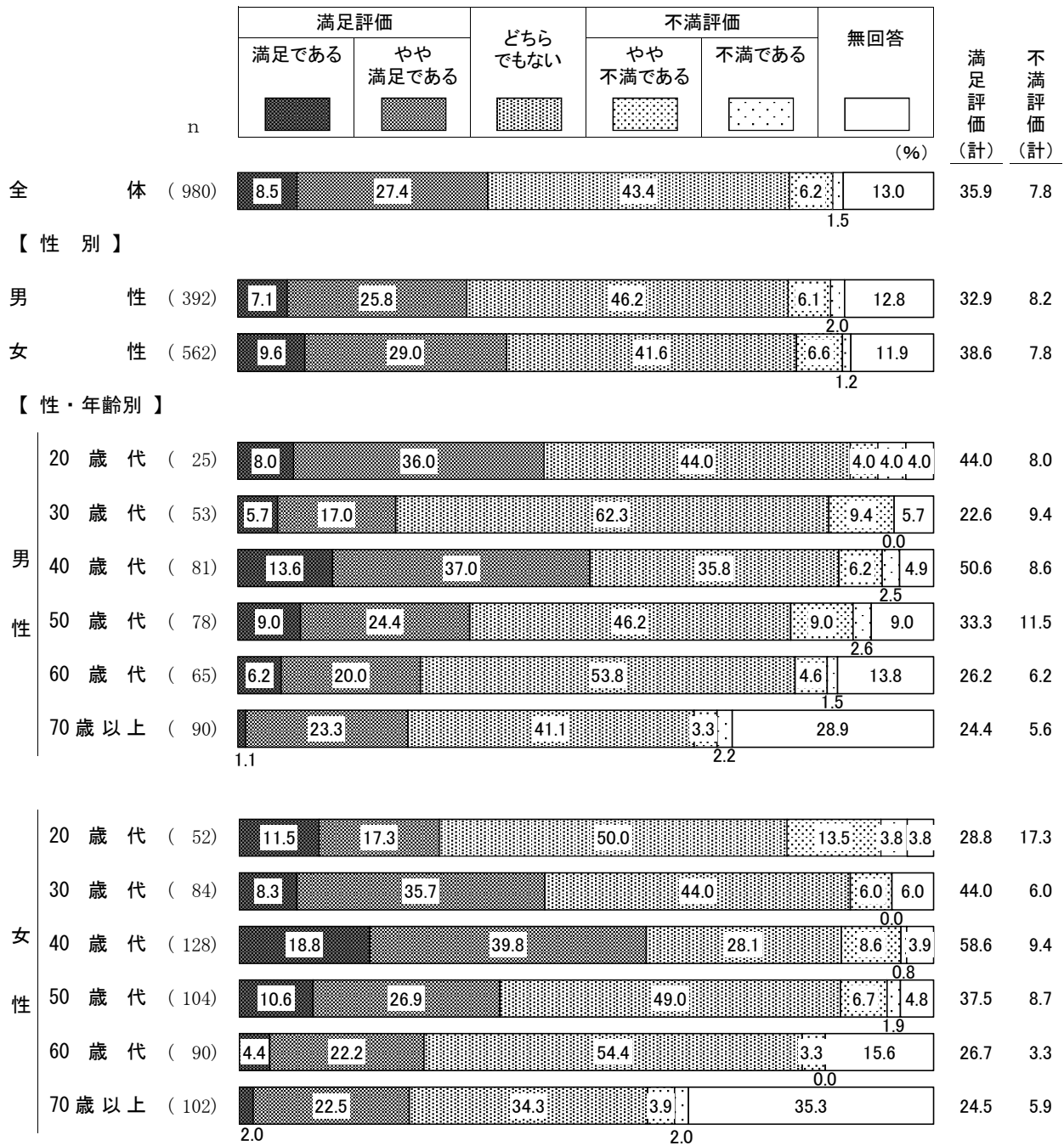


(2) 学校や地域の団体等が連携し、協力して防犯・防火活動ができるよう支援することについて、性別にみると、『満足評価』は女性の方が5.8ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『満足評価』は男女それぞれ20歳代で最も多く、女性20歳代が5割、男性20歳代が5割近くとなっており、男女それぞれ40歳代が4割台で次いでいる。また、女性は50歳代、60歳代も4割台となっている。(図3-5-4)

図3-5-5 区の安全・安心施策の満足度—性別／性・年齢別

(3) 犯罪発生情報の提供（メール配信など）

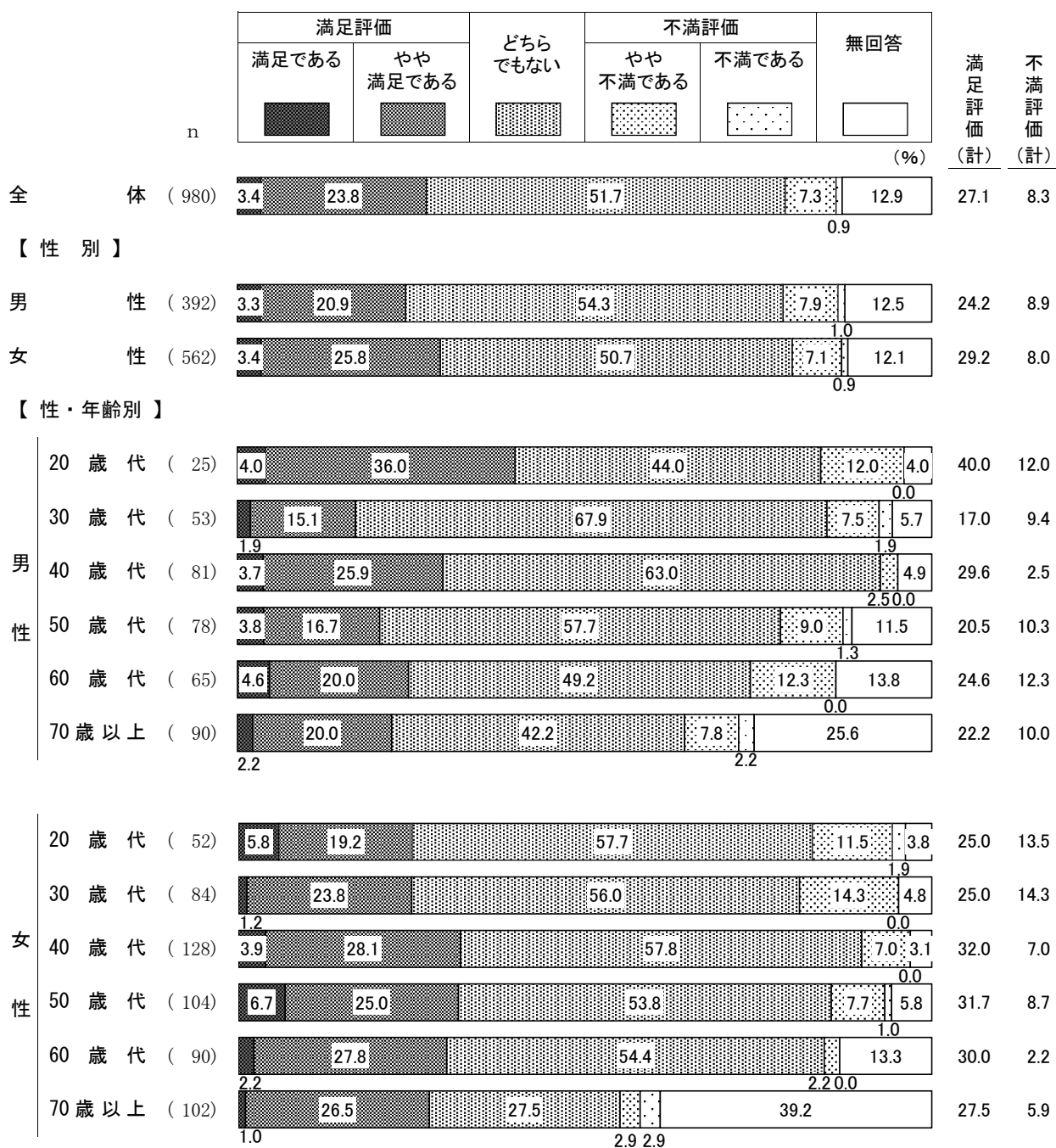


(3) 犯罪発生情報の提供（メール配信など）について、性別にみると、『満足評価』は女性の方が5.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『満足評価』は男女それぞれ40歳代で最も多く、女性40歳代で6割近く、男性40歳代でほぼ5割となっている。（図3-5-5）

図3-5-6 区の安全・安心施策の満足度—性別／性・年齢別

(4) 犯罪や火災から身を守るための講習会の実施や知識の提供

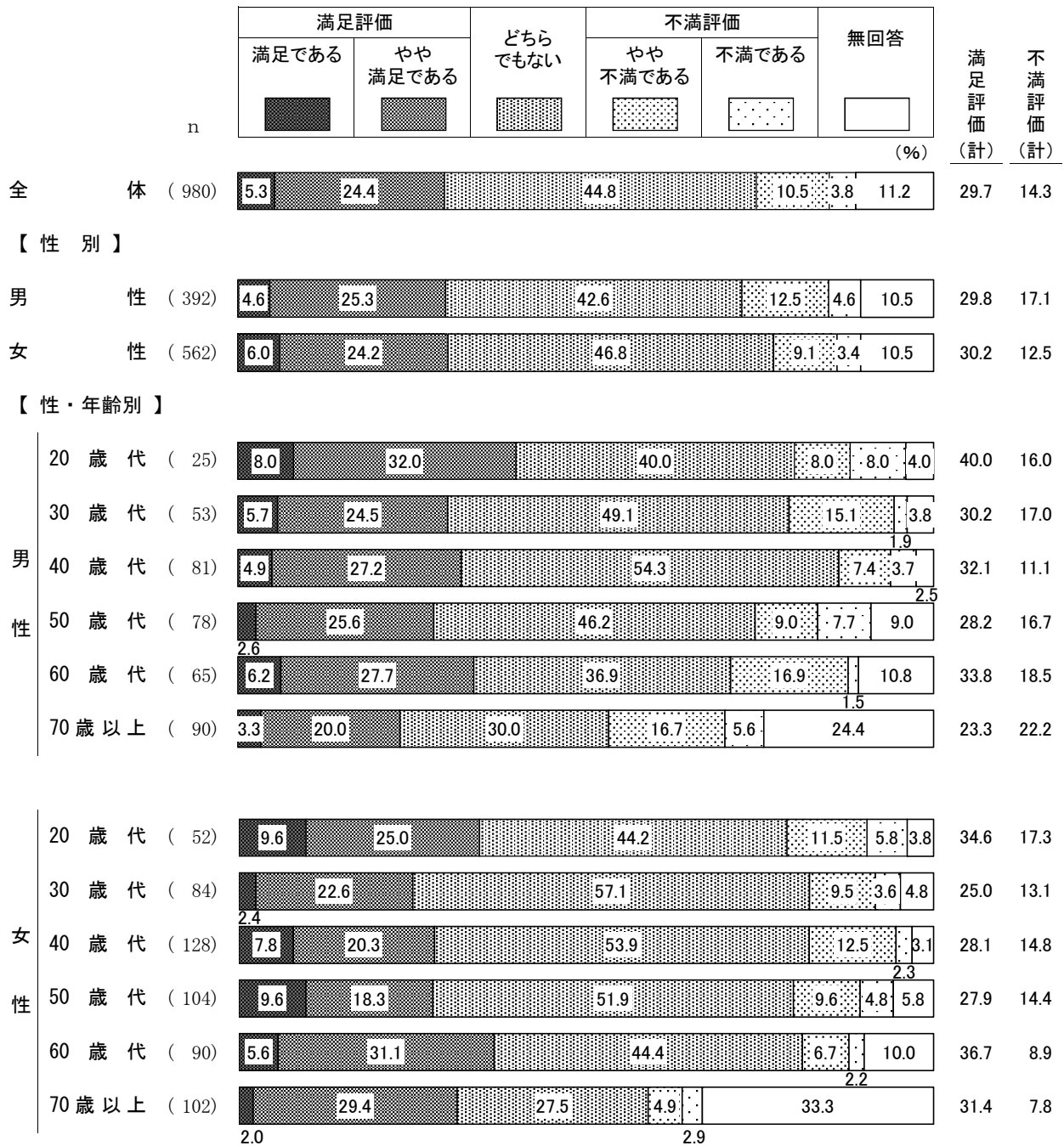


(4) 犯罪や火災から身を守るための講習会の実施や知識の提供について、性別にみると、『満足評価』は女性の方が5.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『満足評価』は男性20歳代で4割、女性40歳代から60歳代で3割台となっている。(図3-5-6)

図3-5-7 区の安全・安心施策の満足度—性別／性・年齢別

(5) 防犯カメラ設置費用の助成

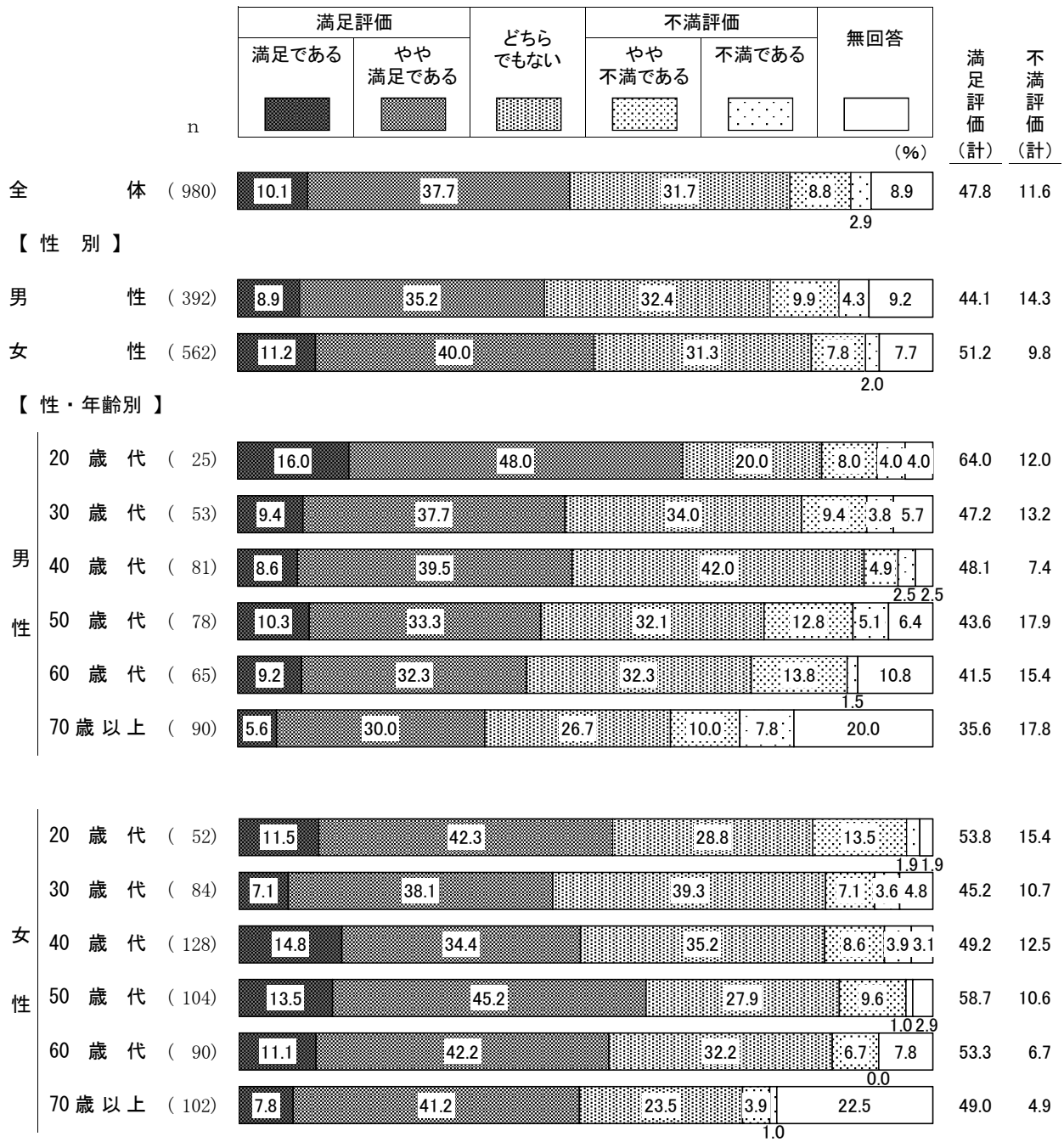


(5) 防犯カメラ設置費用の助成について、性別にみると、『満足評価』は男女で大きな傾向の違いはみられないが、『不満評価』は男性の方が4.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『満足評価』は男性20歳代で4割となっている。(図3-5-7)

図3-5-8 区の安全・安心施策の満足度－性別／性・年齢別

(6) 安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回



(6) 安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回について、性別にみると、『満足評価』は女性の方が7.1ポイント高くなっている。

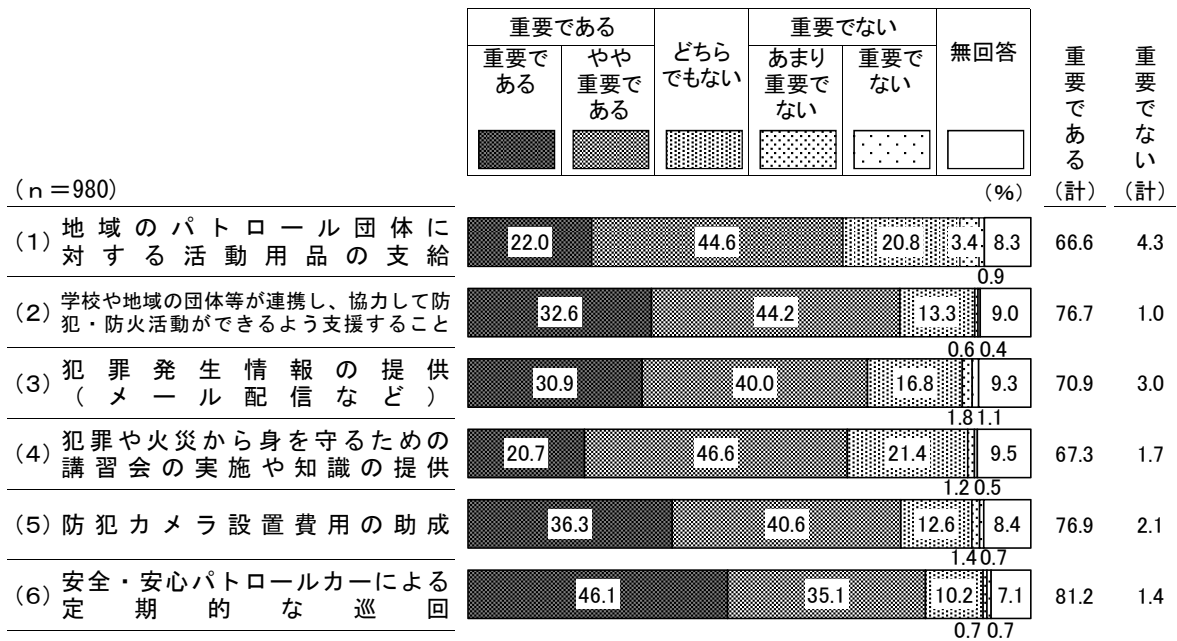
性・年齢別にみると、『満足評価』は男性20歳代で6割半ば、女性20歳代、50歳代、60歳代で5割台となっている。(図3-5-8)

(6) 区の安全・安心施策の重要度

◇『重要である』は「安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回」が8割を超える

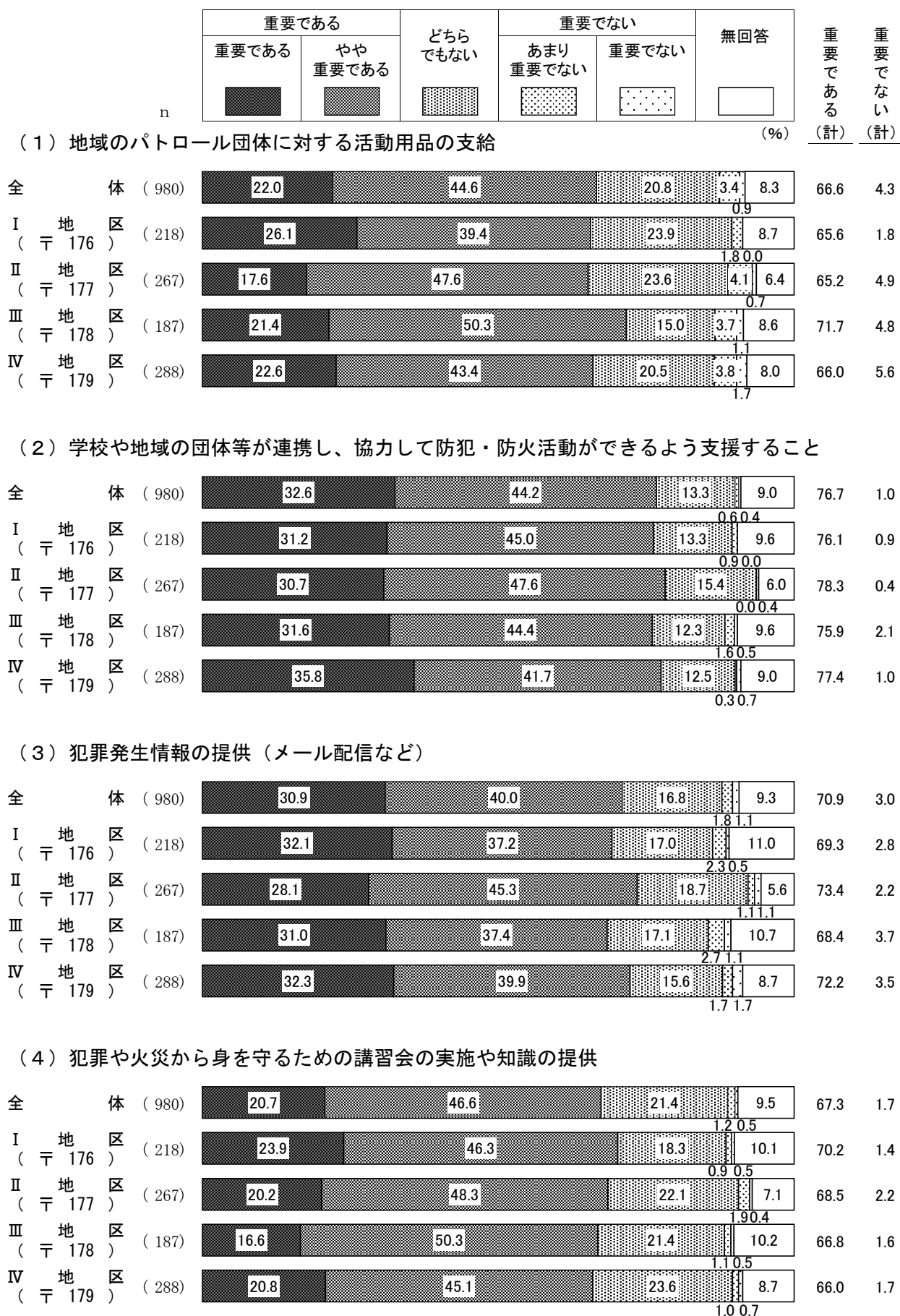
問26 地域の安全・安心を推進する現在の区の活動に対して、あなたはどの程度重要だと思いますか。次の(1)～(6)の項目ごとに、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

図3-6-1 区の安全・安心施策の重要度



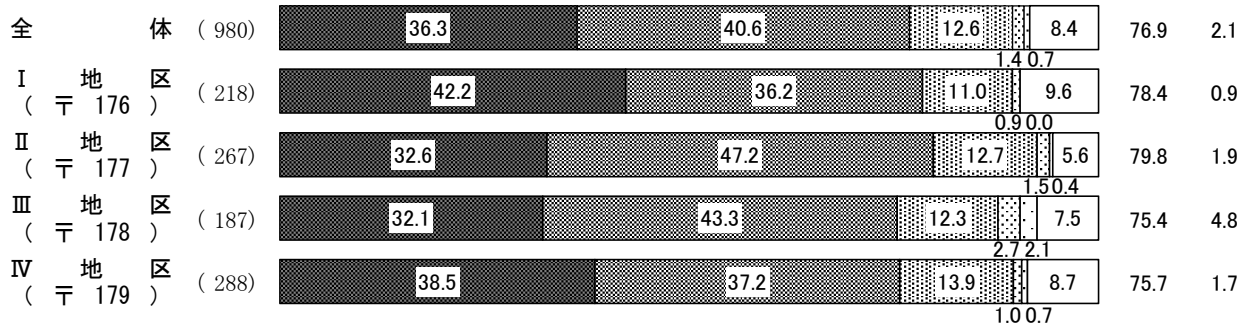
区の安全・安心施策に対する重要度について、6項目に分けて聞いたところ、「重要である」と「やや重要である」を合わせた『重要である』の割合は、(6)安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回(81.2%)が8割を超えて最も多く、次いで(5)防犯カメラ設置費用の助成(76.9%)、(2)学校や地域の団体等が連携し、協力して防犯・防火活動ができるよう支援すること(76.7%)、(3)犯罪発生情報の提供(メール配信など)(70.9%)などの順となっている。(図3-6-1)

図3-6-2 区の安全・安心施策の重要度—地区別

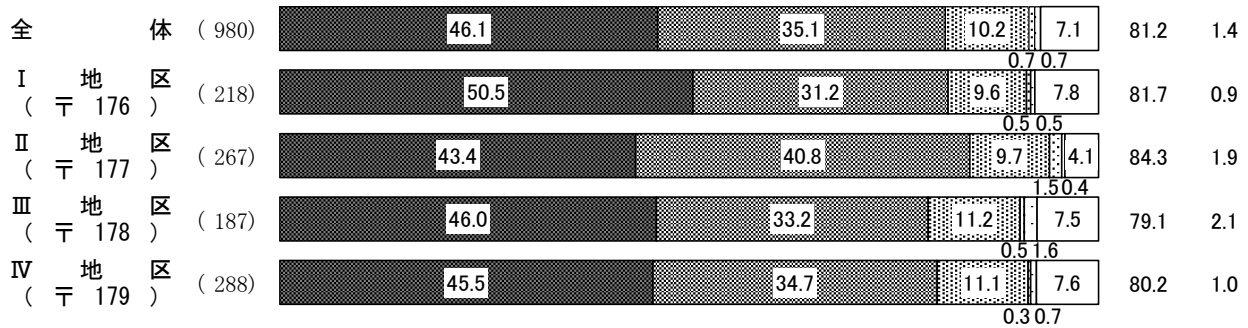


n	重要である		どちら でもない	重要でない		無回答	重要 である (計)	重要 でない (計)
	重要である	やや 重要である		あまり 重要でない	重要でない			

(5) 防犯カメラ設置費用の助成



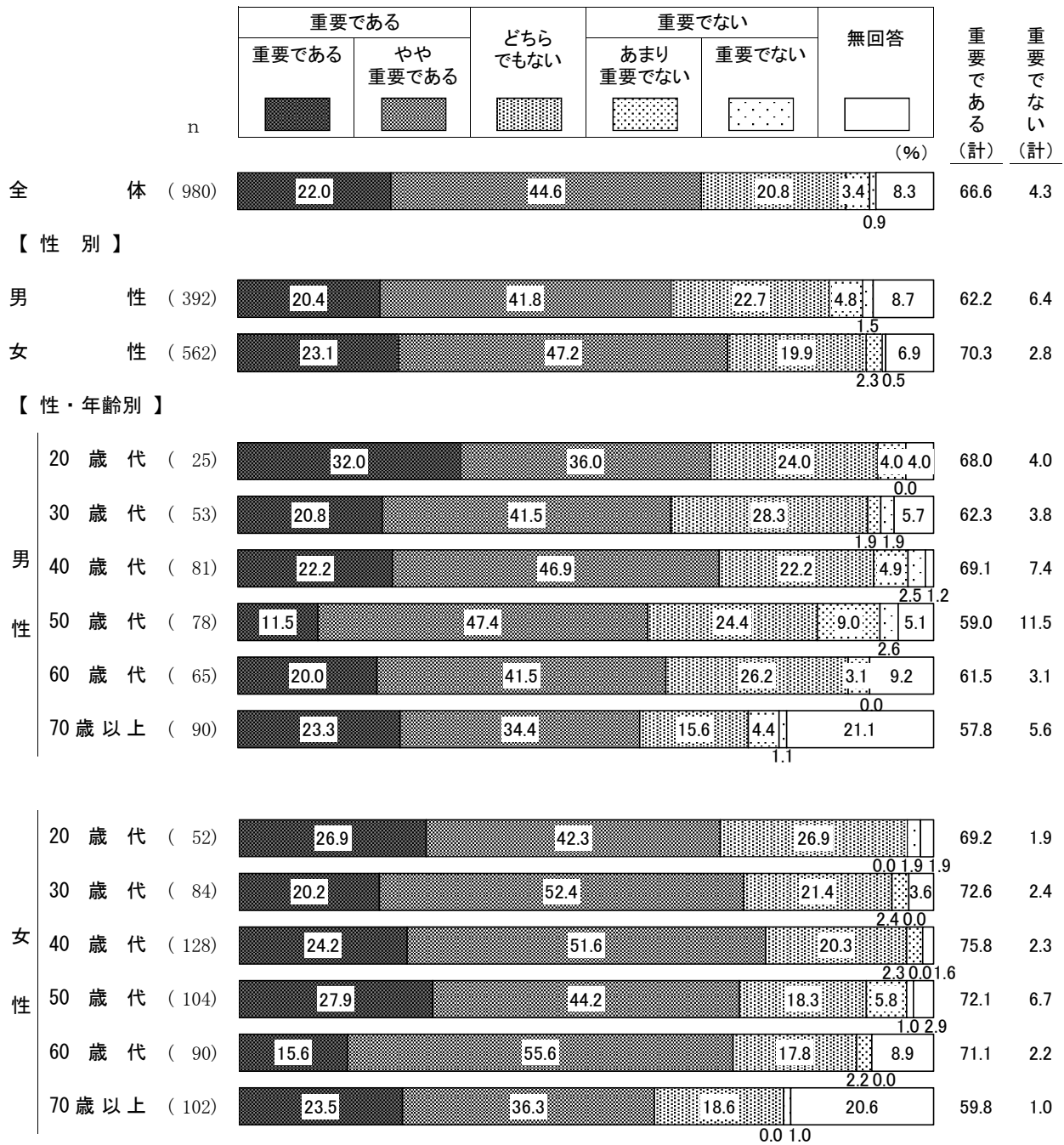
(6) 安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回



地区別にみると、『重要である』の割合は、(1) 地域のパトロール団体に対する活動用品の支給はIII地区(〒178)で最も多く、(4) 犯罪や火災から身を守るための講習会の実施や知識の提供はI地区(〒176)で最も多い。また、(2) 学校や地域の団体等が連携し、協力して防犯・防火活動ができるよう支援すること、(3) 犯罪発生情報の提供(メール配信など)、(5) 防犯カメラ設置費用の助成、(6) 安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回はII地区(〒177)で最も多くなっている。(図3-6-2)

図3-6-3 区の安全・安心施策の重要度—性別／性・年齢別

(1) 地域のパトロール団体に対する活動用品の支給

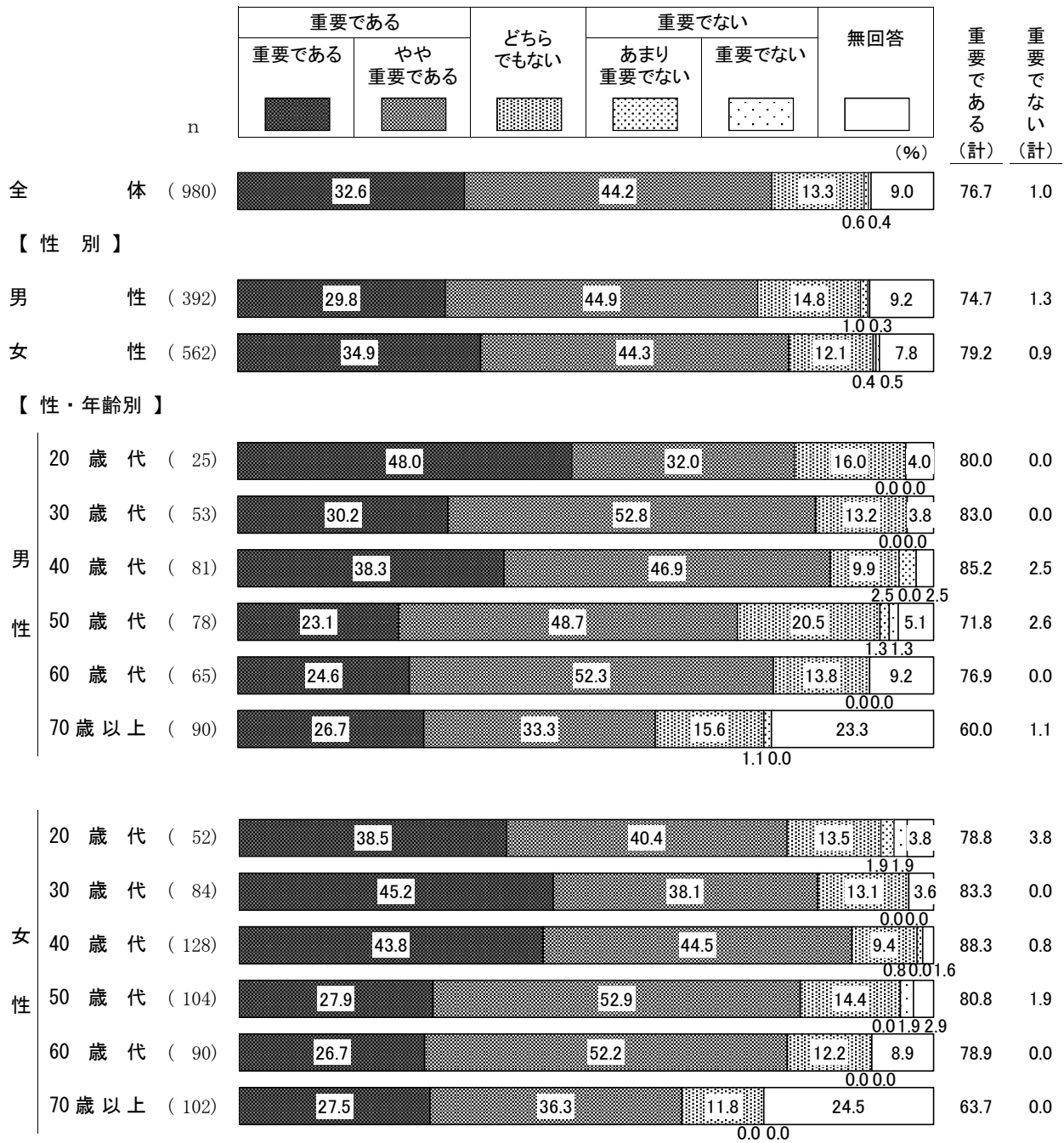


(1) 地域のパトロール団体に対する活動用品の支給について、性別にみると、『重要である』は女性の方が8.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『重要である』は男女ともに40歳代で最も多く、女性40歳代が7割半ば、男性40歳代がほぼ7割となっている。(図3-6-3)

図3-6-4 区の安全・安心施策の重要度—性別／性・年齢別

(2) 学校や地域の団体等が連携し、協力して防犯・防火活動ができるよう支援すること

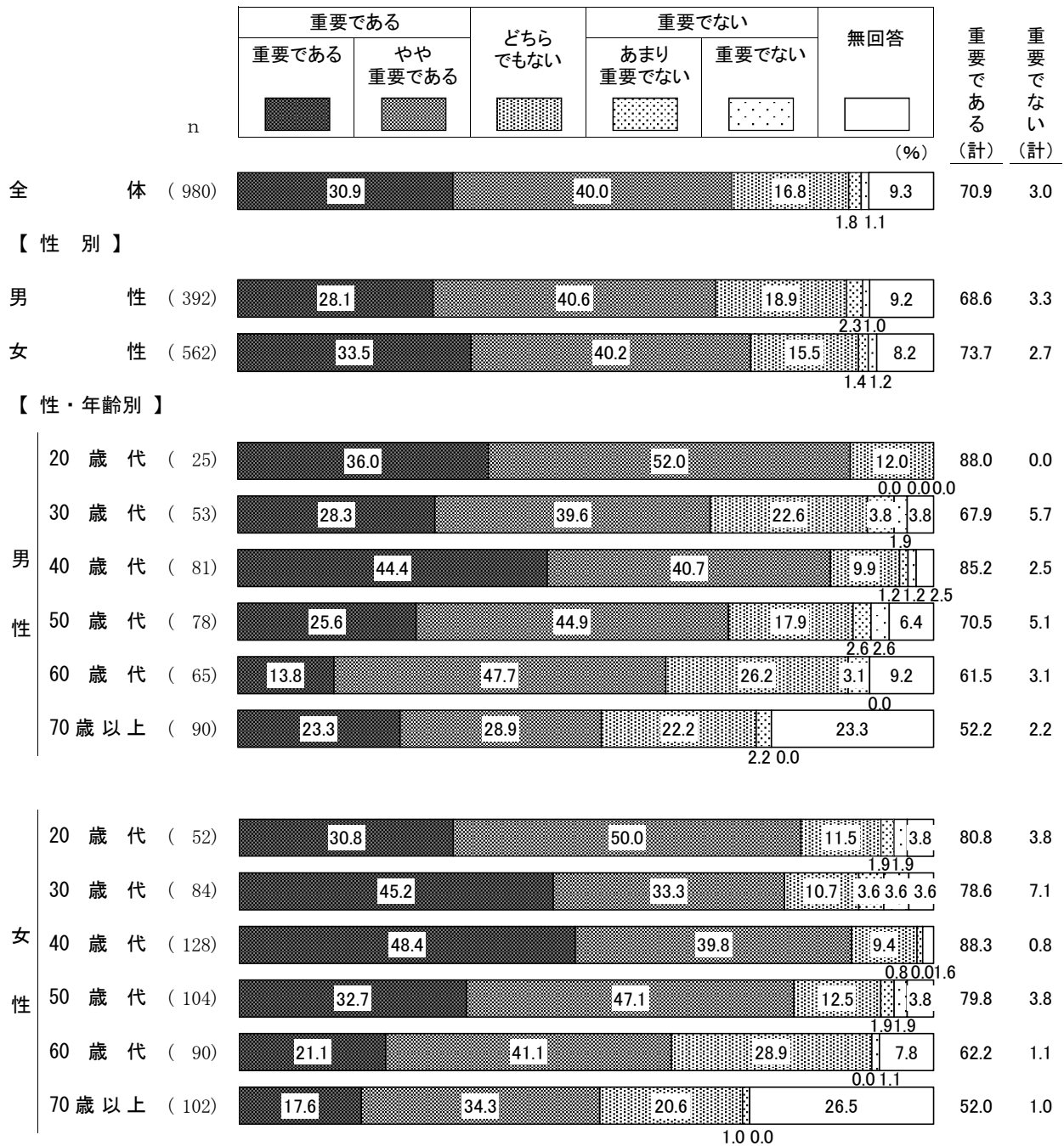


(2) 学校や地域の団体等が連携し、協力して防犯・防火活動ができるよう支援することについて、性別にみると、『重要である』は女性の方が4.5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『重要である』は男女ともに40歳代で最も多く、女性40歳代が9割近く、男性40歳代が8割半ばとなっている。(図3-6-4)

図3-6-5 区の安全・安心施策の重要度—性別／性・年齢別

(3) 犯罪発生情報の提供（メール配信など）



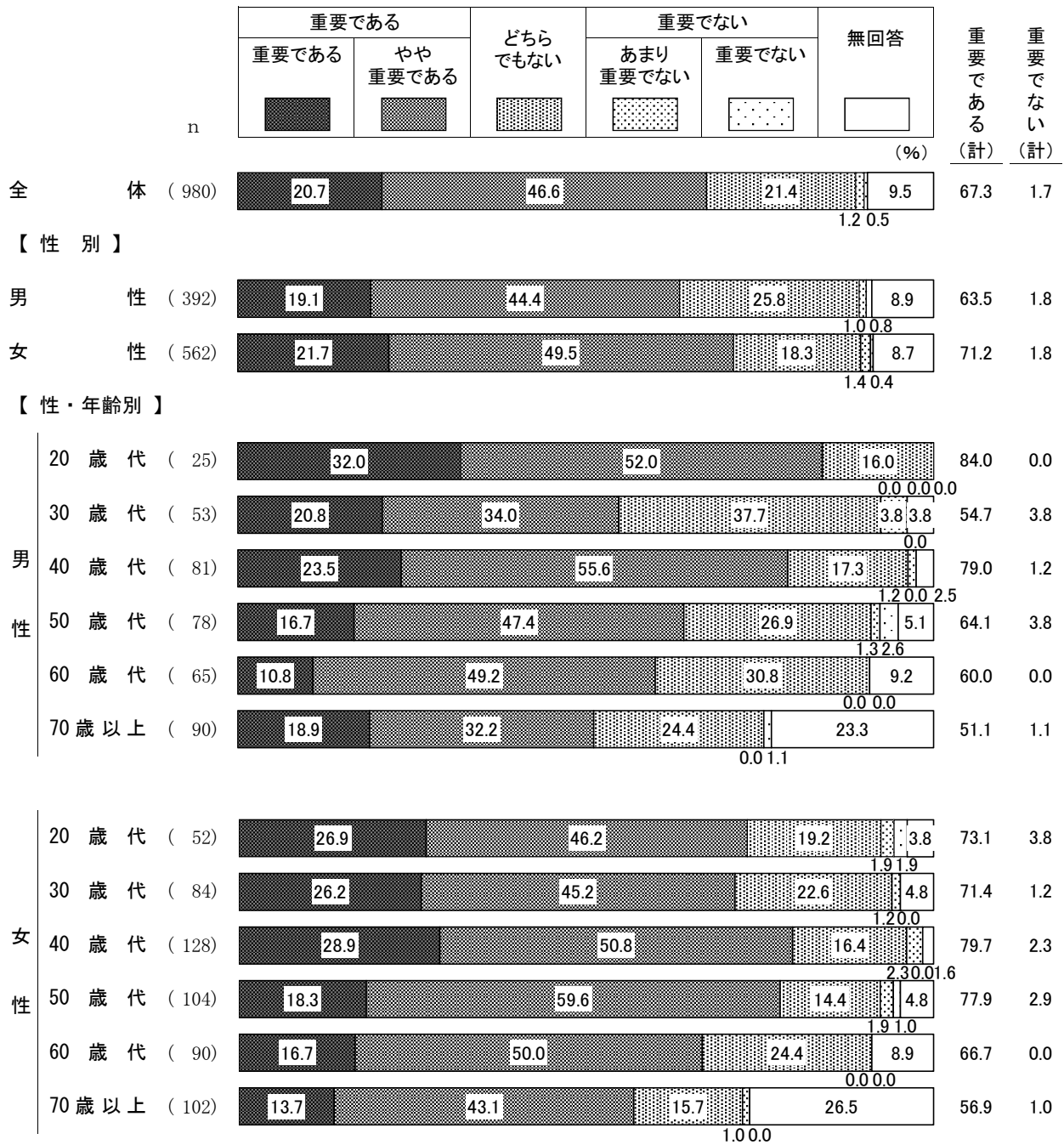
(3) 犯罪発生情報の提供（メール配信など）について、性別にみると、『重要である』は女性の方が5.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『重要である』は男女ともに20歳代及び40歳代が多く、女性40歳代と男性20歳代が9割近く、男性40歳代が8割半ば、女性20歳代がほぼ8割となっている。

(図3-6-5)

図3-6-6 区の安全・安心施策の重要度—性別／性・年齢別

(4) 犯罪や火災から身を守るための講習会の実施や知識の提供

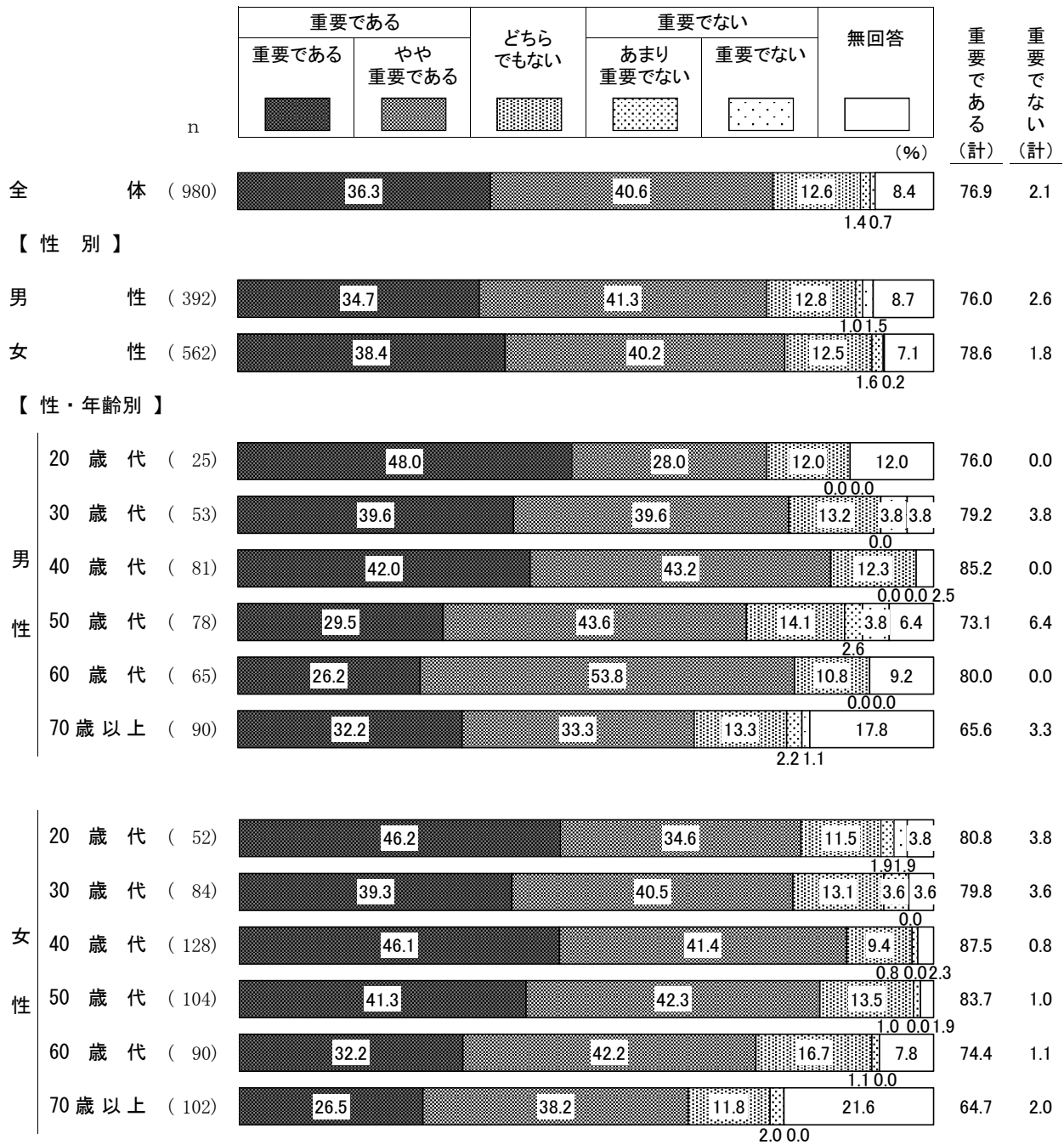


(4) 犯罪や火災から身を守るための講習会の実施や知識の提供について、性別にみると、『重要である』は女性の方が7.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『重要である』は男性20歳代で8割半ば、男女ともに40歳代でほぼ8割となっている。(図3-6-6)

図3-6-7 区の安全・安心施策の重要度—性別／性・年齢別

(5) 防犯カメラ設置費用の助成

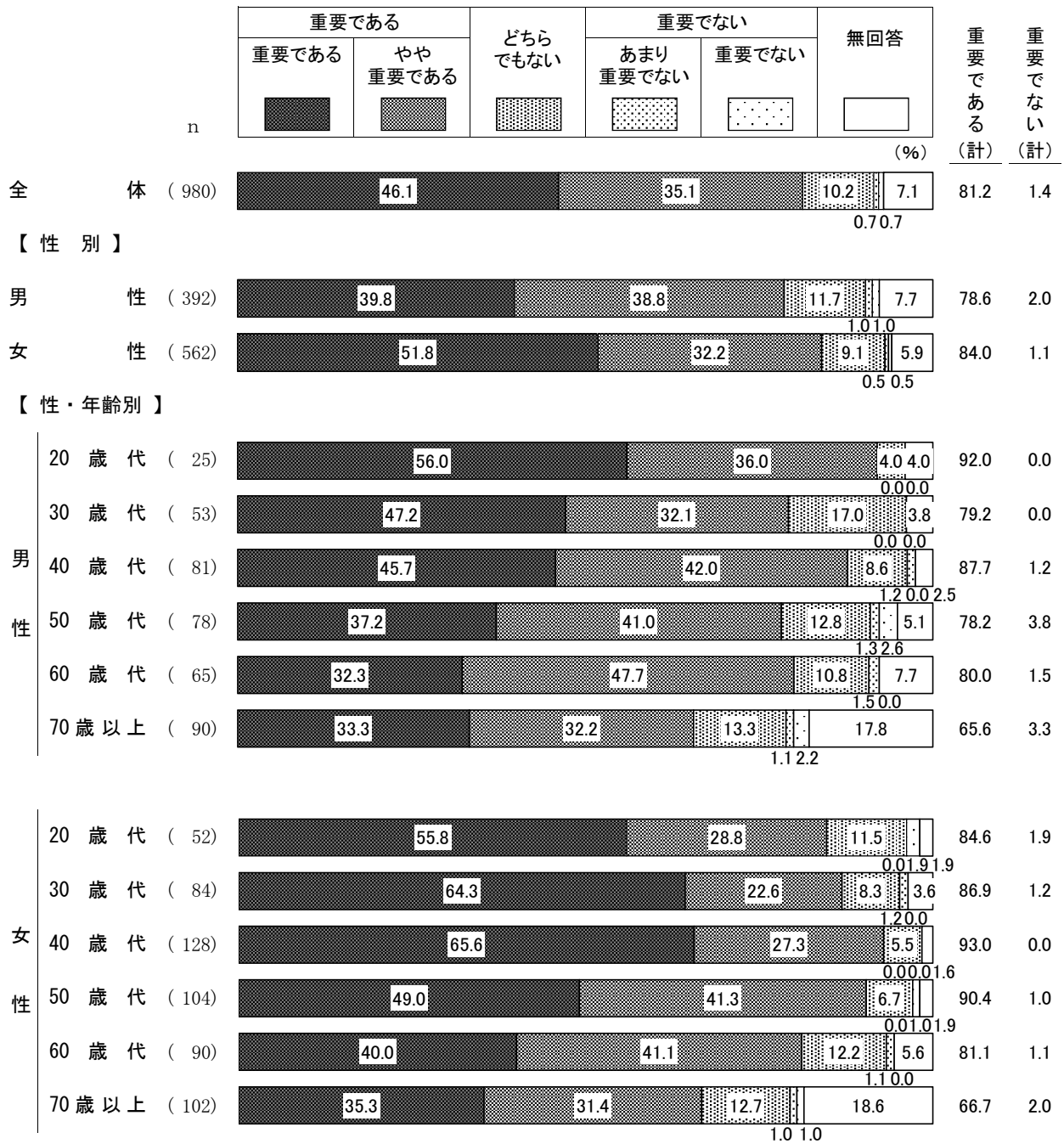


(5) 防犯カメラ設置費用の助成について、性別にみると、『重要である』は女性の方が2.6ポイント高くなっているが、他の項目に比べて男女間の差が最も小さくなっている。

性・年齢別にみると、『重要である』は男女ともに40歳代で8割半ばと最も多くなっている。また、男性60歳代、女性20歳代、女性50歳代も8割台となっている。(図3-6-7)

図3-6-8 区の安全・安心施策の重要度—性別／性・年齢別

(6) 安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回



(6) 安全・安心パトロールカーによる定期的な巡回について、性別にみると、『重要である』は女性の方が5.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『重要である』は男性20歳代、女性40歳代、50歳代で9割を超えている。(図3-5-8)